

令和元年度
教育委員会の事務の管理及び
執行状況の点検及び評価報告書
(平成30年度事業)

令和元年9月

日野市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
II	点検・評価の基本方針	1
1	目的	1
2	点検・評価の対象	1
3	点検・評価の実施方法	1
III	教育委員会の活動状況の点検・評価について	2
1	教育委員会の組織	2
2	活動状況の概要	2
3	点検・評価	2
4	学識経験者の意見	3
	平成30年度 教育委員会活動状況	5
(1)	構成	5
(2)	定例会・臨時会	5
(3)	日野市総合教育会議	8
(4)	教育委員会施策研究会等	8
(5)	市長と教育委員との意見交換会	10
(6)	日野市立小中学校PTA協議会と教育委員との意見交換会	10
(7)	校長会と教育委員との意見交換会	10
(8)	教育委員の学校訪問	11
(9)	教育委員の研究発表会への出席	12
(10)	教育委員の視察研修・連絡会等	13
(11)	教育委員の関係行事への出席	14
(12)	教育委員として就任している他の組織の委員等	15
IV	主要な取り組みの執行状況の点検・評価について	16
1	教育委員会の主要な取り組み及び評価対象	16
	教育目標(体系図)	17
	日野市教育委員会学校教育部門の主要な取り組み(平成30年度)	18
	日野市教育委員会生涯学習部門の主要な取り組み(平成30年度)	22
	評価対象事業一覧	24
2	点検・評価	25
3	学識経験者の意見	25
4	個別事業の評価	35
	(資料)	
	・日野市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価実施要綱	
	・学びと育ちの日野ビジョン(日野市総合教育大綱)	

平成30年度の日野市教育委員会は、平成30年8月2日まで地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成26年法律第76号）附則第2条第2項の規定に基づき、改正前の地方教育行政の組織及び運営に関する法律を適用している。

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下、「地教行法」という。）では、『教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならない』とされている。

この報告書は、同法の規定に基づき、日野市教育委員会が行った点検・評価の結果をまとめたものである。

II 点検・評価の基本方針

1 目的

- (1) 施策及び事務事業の取り組み状況について、点検及び評価を行い、課題や取り組みの方向性を明らかにすることにより、効果的で、市民に信頼される教育行政を推進していく。
- (2) 点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに市民に公表することにより、市民に対する説明責任を果たしていく。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、平成30年度の教育委員会の活動及び平成30年度の主要な取り組みとした。

3 点検・評価の実施方法

点検・評価を行うに当たっては、その客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する次の2名の方からご意見をいただいた。

伊藤 義男 （学校給食供給農家・元日野市農業委員会委員）
蟹江 杏 （版画家）

Ⅲ 教育委員会の活動状況の点検・評価について

1 教育委員会の組織

教育委員会は、政治的中立性を確保し地域の実情に合った教育行政を行うことを目的として「地教行法」により設置される合議制の執行機関で、教育長及び4人の委員とで構成される。

委員は、市長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有するものの中から、市長が市議会の同意を得て任命し、任期は4年である。

教育長は、市長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育行政に関し識見を有するものの中から市長が議会の同意を得て任命し、任期は3年である。

2 活動状況の概要

教育委員会では、毎月1回定例会を開催し教育に関する議案、協議事項、報告事項等を審議している。また必要に応じて、臨時会を開催している。

平成30年度は、定例会を12回開催し、議案60件、協議事項5件、請願審査1件、報告事項28件について審議等を行った。

また改正「地教行法」の規定により「日野市総合教育会議」が開催され、平成30年8月13日の会議において「大綱の実現に向けた市の取組について」について討議された。

このほか、定期的に教育委員会施策研究会を実施するとともに、市長及び校長会との意見交換会、日野市立小中学校PTA協議会との意見交換会、学校訪問や学校の研究発表会、視察研修、生涯学習関連行事等に参加した。

※詳細は、5ページ「平成30年度教育委員会活動状況」を参照

3 点検・評価

教育委員会の活動状況に関して点検した結果、「地教行法」の主旨に則り適正な組織運営を行ってきたと考える。

定例会では、未来に向けた学びと育ちの基本構想(第3次学校教育基本構想)の策定、平成31年度(2019年度)の主要な取り組みの策定等、教育行政の基本方針を決定した。

このほか、市長との意見交換会で教育委員会の施策や予算に関して、市長部局と調整

を図るとともに、校長会や日野市立小中学校PTA協議会との意見交換会で活発に議論を行い、学校や地域との更なる連携を進めた。

また、各事業、式典等に数多く出席することにより現場の状況や実態の把握に努めた。

4 学識経験者の意見

(1) 学校給食供給農家・元日野市農業委員会委員 伊藤 義男

平成30年度教育委員会定例会を12回開催し、限られた時間の中で議案60件・協議事項5件・請願審査1件・報告事項28件について、慎重に審議された。特に3月に開催された第12回定例会では、議案件数も16件と多く、新しい学校教育基本構想等の審議もあり、大変だったと思う。

日野市総合教育会議が8月に開催され、日野市教育大綱実現に向けた取り組みとして「学校における働き方改革」が紹介され活発な意見交換が行われた。日本の教員の長時間労働が、経済協力開発機構(OECD)加盟国の中で、最も長いとされる調査結果が発表されるなど、その改善が急がれる中、教員の負担軽減を図るためのスクール・サポート・スタッフの配置や副校長補佐の配置等がなされたことについて、高く評価したい。

教育委員会施策研究会が13回開催され、多くの情報交換がなされたこと。また、市長と教育委員、日野市小中学校PTA協議会と教育委員、校長会と教育委員による情報交換も行われ、日野市の教育を取り巻く現状や取り組みの経過等について、活発な意見交換の場が開かれた。

教育委員の学校訪問は9回行われ、研究発表会への出席も3回、視察研修等への出席も9回、学校教育や生涯学習関係行事等へ出席され、教育現場の実態把握と連携の推進に成果を挙げた。

(2) 版画家 蟹江 杏

市長と教育委員、小中学校PTA協議会と教育委員、校長会と教育委員との意見交換会がかさねておこなわれたとのご報告を受けました。

10回以上の定例会や臨時会、研究会をされている記録も拝見致しました。

特に障害者差別解消法への対応や、子どもの貧困について、いじめに関する取り組みについては、全ての子ども達が一人一人生き生きと学び、生活するための根本的に解決しなければならない問題だと感じます。

その問題を解決するためには大人達が立場を超えて重ねて対話し、議論しなければなりません。

利益や要領を追求するような他の仕事ならば会議の回数を多く重ねる事だけが得策

ではないと思いますが、教育の現場においてはもしかしたらそうとは言えず、何度も顔を合わせて頂き話し合いする事が、むしろとても大切なことだと思います。

さらに、有意義な話し合いのために、教育委員の学校訪問は現場を実際に目で見る事ができるのでとても大切に意味のある事だと感じます。

学校訪問のあり方や方法、回数などの状況はわかりませんが、こども達の実際の学校生活状況を、教員の様子や現場の肌感覚を、市や教育委員会の方々に知って頂き共有して頂くために、学校訪問をより有意義に行える方法を模索していただければ良いと感じました。

平成30年度 教育委員会活動状況

(1) 構成

職名	氏名	委員初任年月日	任期
委員長	西田 敦子	平成22年12月4日	平成26年12月4日～平成30年12月3日 平成30年12月4日～平成34年12月3日 ※平成30年8月3日に新教育長制度への移行に伴い委員に
委員			
委員長職務代理者	高木 健夫	平成23年6月28日	平成28年6月28日～平成32年6月27日 ※平成30年8月3日に新教育長制度への移行に伴い教育長職務代理者に
教育長職務代理者			
委員	濱屋 浩	平成25年6月3日	平成27年10月2日～平成31年10月1日
委員	真野 広	平成29年9月30日	平成29年9月30日～平成33年9月29日
教育長	米田 裕治	平成22年8月3日	平成26年8月3日～平成30年8月2日 平成30年8月3日～平成33年8月2日

(2) 定例会・臨時会

毎月1回定例会を開催し、議案、協議、報告事項等、教育に関する事項を審議した。

平成30年度は、定例会を12回開催し、議案60件、協議事項5件、請願審査1件、報告事項28件について審議等を行った。

	区分	件数	主な案件	傍聴者数
第1回定例会 平成30年4月12日開催	議案	5	日野市立幼稚園保育料条例の一部を改正する条例制定の専決処分 の報告承認の提出について、第31期日野市社会教育委員の委 嘱について、第28期日野市立図書館協議会委員の任命につい て、第7期日野市郷土資料館協議会委員の解任及び任命の専決 処分について、第8期日野市立教育センター運営審議会委員の任 命の専決処分について	0
	報告事項	6	日野市立幼稚園保育料条例の一部を改正する条例制定の専決処 分について、日野市立学校適正規模、適正配置等検討委員会答 申について、日野市奨学金条例施行規則の一部を改正する規則 の制定について、平成30年第1回日野市議会定例会の報告、平 成29年度就学援助申請者数及び認定者数、日野市教育委員会 後援等名義使用実績報告(平成29年10月～平成30年3月)	
第2回定例会 平成30年5月10日開催	議案	4	日野市教育委員会教育長の勤務時間、休日、休暇等及び職務に 専念する義務の特例に関する条例の制定について、平成30年度 日野市教育委員会評価委員の委嘱について、教育委員会職員人 事の専決処分について、平山小学校学校運営協議会委員の解任 及び任命の専決処分について	1
	報告事項	1	平成30年度「選べる学校制度」実施状況	

	区分	件数	主な案件	傍聴者数
第3回定例会 平成30年6月21日開催	議案	4	東光寺小学校学校運営協議会委員の任命の専決処分について、第30期日野市文化財保護審議会委員の委嘱について、第27期日野市公民館運営審議会委員の委嘱について 他	1
	協議事項	3	日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針(素案)について、市立幼稚園統合計画(素案)について、市立小学校通学区域変更計画(素案)について	
第4回定例会 平成30年7月19日開催	議案	2	日野市教育委員会教育長の勤務時間、休日、休暇等及び職務に専念する義務の特例に関する条例施行規則の制定の専決処分について、平山小学校学校運営協議会委員の任命の専決処分について	0
	報告事項	2	平成30年第2回日野市議会定例会の報告、要綱の制定及び改廃の報告(平成30年4月～6月)	
第5回定例会 平成30年8月9日開催	議案	9	日野市立中学校教科用図書(特別の教科 道徳)の採択について、日野市立小学校教科用図書の採択について、日野市立小学校教科用図書(特別の教科 道徳)の採択について、日野市立中学校教科用図書の採択について、日野市立小・中学校特別支援学級教科用図書の採択について、平成30年度教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書(平成29年度事業)について 他	29
	協議事項	2	日野市立中学校教科用図書(特別の教科 道徳)の選定について、日野市立小学校教科用図書の選定について	
第6回定例会 平成30年9月13日開催	議案	5	日野市立幼稚園保育料条例の一部を改正する条例制定の専決処分の報告承認についての提出に関する専決処分について、日野市立学校適正規模・適正配置等の基本方針について、市立幼稚園統合計画について、市立小学校通学区域変更計画について、日野市立学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定について	1
	報告事項	5	日野市立幼稚園保育料条例の一部を改正する条例制定の専決処分について、平成30年度日野市中央公民館の運営の状況に関する評価書(平成29年度事業)、平成30年度日野市立図書館の運営の状況に関する評価書(平成29年度事業)、平成30年度日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価書(平成29年度事業)、平成31年度入学「選べる学校制度」希望調査集計結果(小学校)	

	区分	件数	主な案件	傍聴者数
第7回定例会 平成30年10月11日開催	議案	4	日野市立学校設置条例の一部を改正する条例の提出について、日野市立八ヶ岳高原大成荘指定管理者の指定について 他	1
	報告事項	5	平成30年第3回日野市議会定例会の報告、平成30年度就学援助申請者数及び認定者数(平成30年4月～6月)、平成30年度日野市高校生奨学金の申請者数及び決定者数、要綱の制定及び改廃の報告(平成30年7月～9月)、日野市教育委員会後援等名義使用実績報告(平成30年4月～9月)	
第8回定例会 平成30年11月8日開催	報告事項	2	平成31年度入学「選べる学校制度」希望調査集計結果(中学校)、行政情報の公開請求	0
第9回定例会 平成30年12月20日開催	議案	3	日野市立図書館ホームページ広告掲載取扱要綱の制定について 他	0
	報告事項	2	平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析、平成30年度「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」分析	
第10回定例会 平成30年1月10日開催	議案	3	日野市立幼稚園に関する規則の一部を改正する規則の制定について、日野市立学校設置条例の一部を改正する条例の施行に伴う日野市立幼稚園に関する規則第3条第1項に規定する幼稚園の定員の特例を定める規則の制定について 他	0
	報告事項	2	平成30年第4回日野市議会定例会の報告、要綱の制定及び改廃の報告(平成30年10月～12月)	
第11回定例会 平成31年2月7日開催	議案	5	日野市要保護及び準要保護児童生徒援助費支給要綱の一部を改正する要綱の制定について 他	0
	報告事項	1	未来に向けた学びと育ちの基本構想(第3次学校教育基本構想)(素案)に対するパブリックコメントの実施について	
第12回定例会 平成31年3月28日開催	議案	16	未来に向けた学びと育ちの基本構想(第3次学校教育基本構想)の策定について、平成31年度(2019年度)の主要な取り組みの策定について、日野市立小・中学校における働き方改革推進プランの策定について、日野市立学校教科用図書採択要綱の制定について、日野市立小中学校学校司書嘱託員設置要綱の制定について、日野市立学校職員服務規程の一部を改正する規則の制定について、東光寺小学校学校運営協議会委員の任命について、日野市立学校の学校薬剤師の解嘱及び委嘱について、日野市立教育センター所長の任命について、日野市適応指導教室設置要綱の全部を改正する要綱の制定について、日野市立教育センター設置条例施行規則の一部を改正する規則の制定について 他	0
	請願審査	1	特別に支援を要する児童への対応に関する請願	
	報告事項	2	行政情報の公開請求、図書館の立川市及び国立市との相互利用開始について	

(3) 日野市総合教育会議

平成27年4月1日に施行された改正「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、「学びと育ちの日野ビジョン(日野市教育大綱)」が、平成28年2月24日に策定された。

平成30年度の第1回日野市総合教育会議は、市長の召集により、8月13日(月)に開催された。議題は「大綱の実現に向けた市の取組について」「日野市総合教育会議設置要綱の一部を改正する要綱の制定について」で、市長部局、教育委員会の中でどのような取り組みが行われているかの調査資料を基に、代表的な取り組み事例が報告された。

教育委員会からは、「学校における働き方改革」が紹介され、大綱実現に向けた取組について、教育委員と理事者の間で活発な意見交換が行われた。

議題	主な内容
議題第1号	<ul style="list-style-type: none"> ・大綱の実現に向けた市の取組について ①学校における働き方改革 ②ICTを活用した働き方改革
議題第2号	<ul style="list-style-type: none"> ・日野市総合教育会議設置要綱の一部を改正する要綱の制定について

※議事録、資料等 ホームページで公開

(4) 教育委員会施策研究会等

施策課題に対する研究や教育委員の情報交換のため、実施した。

実施日	主な研究課題・情報交換等の内容
平成30年4月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・日野市立学校適正規模・適正配置等検討委員会の答申を受けての今後について ・第3次日野市学校教育基本構想について ・平成30年度日野市立小・中学校研究奨励校について ・移動図書館モデル事業(旭が丘地区)について ・公民館講座「公民館の新たな可能性と交流のかたち」(3月3日開催)の報告 ・平成30年度郷土資料館事業案内と企画展～「巽 聖歌と赤い鳥」について ・平成30年度日野市教育委員会評価(平成29年度事業)の評価委員について 他
平成30年5月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・日野市がめざす授業について ・第3次 学びと育ちの基本構想の策定について ・働き方改革について ・日野市立学校適正規模・適正配置等について ・「平成29年度 つまずきを軽減するための効果的な授業の工夫と個別の指導」について ・教科書採択について 他
平成30年6月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)未来に向けた学びと育ちの基本構想(第3次学校教育基本構想)の検討について ・学校における働き方改革について ・被災地に学ぶ生きるカプロジェクトの実施について ・道徳教科書について 他
平成30年7月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)未来に向けた学びと育ちの基本構想(第3次学校教育基本構想)の検討会(7月17日)について ・教育委員と理事者との意見交換会(7月23日)でのテーマについて ・教育委員と校長会との意見交換会(8月6日)でのテーマについて ・平成30年度教育委員会評価(平成29年度事業)案について ・道徳教科用図書の採択について ・教育委員の現場視察(七生特別支援学校、子ども食堂)について 他
平成30年8月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度第1回日野市総合教育会議について ・日野市立学校適正規模・適正配置について ・通学路の点検について(中間報告) ・現場視察について(七生特別支援学校を含む4校連携について) 他

実施日	主な研究課題・情報交換等の内容
平成30年9月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の子供たちの状況について ・未来に向けた学びと育ちの基本構想(第3次学校教育基本構想)について ・部活動プロジェクトについて ・平成31年度 日野市教育委員会主要な取り組みについて 他
平成30年10月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業の実施状況について ・幼稚園の統合について ・未来に向けた学びと育ちの基本構想(第3次学校教育基本構想)検討委員会の経過状況について ・紫波町との交流について ・公民館運営審議会への諮問について(報告) 他
平成30年11月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・未来に向けた学びと育ちの基本構想(第3次学校教育基本構想)検討委員会に提出する素案について ・紫波三中修学旅行での日野四中との交流について(米販売など) ・七生緑小5年生と七生特別支援学校との交流事業について ・児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について ・中学生と作家の交流事業の報告 ・勝五郎生まれ変わり物語の報告 他
平成30年12月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・立川市・国立市との図書館相互利用について ・「第3次子ども読書活動推進計画」進捗状況について ・平成30年度「小学生・中学生読書調査」結果について ・平成31年 日野市成人式について ・豊田小学校でのガラス乾板パネル展について 他
平成31年1月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・“いのち”のプロジェクトについて ・平成31年度教育予算について ・教育センター作成の冊子「歩こう 調べよう ふるさと七生」について ・日野市 未来に向けた学びと育ちの基本構想について ・図書館ホームページリニューアルについて ・市政図書館に設置したデジタルサイネージ(電子看板)の視察 他
平成31年2月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・1月20日(日)に日野第一小学校の学校給食が日本テレビで放映されたことについて ・教育委員会事務局からの情報提供について 他
平成31年3月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・未来に向けた学びと育ちの基本構想(第3次学校教育基本構想)の策定について ・平成31年度(2019年度)の主要な取り組みの策定について ・日野市立小・中学校における働き方改革推進プランの策定について ・平成31年度日野市公立小中学校入学式のお祝いの言葉について 他
平成31年3月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度郷土資料館事業について ・日野市公民館基本構想・基本計画策定委員会設置要綱の制定について ・「公民館における利用者交流のあり方について(答申)」の報告について ・第4次日野市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱の制定について ・放課後の学習支援の拡大について ・日野市学校支援ボランティア推進協議会事業実施要綱の改正について ・特別支援学級の通学区域等について 他

(計13回)

(5) 市長と教育委員との意見交換会

教育委員会の施策や予算に関して、市長部局と調整を図るため、市長との意見交換会を実施した。

実施日	主な内容
平成30年7月23日	子供たちに未来へ向かってどんな力を育ててほしいか
平成30年12月12日	平成31年度 教育委員会主要事業について

(6) 日野市立小中学校PTA協議会と教育委員との意見交換会

各小・中学校のPTAの連合会である日野市立小中学校PTA協議会と教育委員との意見交換会を実施した。

実施日	主な内容
平成30年6月9日	日野市立小中学校PTA協議会定期総会
平成31年1月16日	テーマ「麴町中学校の実践に学び 共に考える」 (講師:工藤勇一・千代田区立麴町中学校長)
平成31年1月25日	日野市立小中学校PTA協議会新春交流会

(7) 校長会と教育委員との意見交換会

教育目標の実現を目指し、教育現場の実情や行政課題を把握し、教育委員会の今後の施策や課題に反映させるため、校長会との意見交換会を実施した。

実施日	主な内容
平成30年8月6日	子供たちに未来へ向かってどんな力を育ててほしいか

(8) 教育委員の学校訪問

幼稚園、小・中学校の教育の充実、発展に資するため、教育委員、教育指導担当参事、主任統括指導主事、指導主事が下記の幼稚園、小・中学校を訪問し、学校経営、概要把握、授業参観、施設、設備の活用状況の把握、教職員との協議、懇談、諸帳簿の閲覧等を行い、学校経営全般にわたっての実態を把握した。

また、下記以外の幼稚園、小・中学校には、教育指導担当参事、主任統括指導主事、指導主事が訪問し、学校現場の実態把握に努めた。

訪問日	訪問学校	教職員との協議事項等
平成30年5月18日	潤徳小学校	・学校概要について ・校内研究「互いの考えを認め合い、よりよく生きる児童の育成」～考え・議論する道徳授業の実践～
平成30年6月26日	旭が丘小学校	・学校概要について ・校内研究「進んでからだを育もうとする旭っ子」～健康的な運動・生活習慣の形成と豊かなかかわり合いのある授業づくりを通して～
平成30年7月10日	日野第五小学校	・学校概要について ・校内研究「自他の思いやよさを大切にし、主体的に行動する児童の育成」
平成30年10月19日	日野第一中学校	・学校概要について ・校内研究「『主体的・対話的で深い学び』の視点を踏まえた道徳授業実践の方法と道徳の教科化に向けた評価の方法についての研鑽」
平成30年10月30日	日野第三中学校	・学校概要について ・校内研究「道徳授業の研究～話し合い活動の充実と評価方法～
平成30年11月13日	第二幼稚園	・園概要について ・園内研究「じぶんだいすき！ともだちだいすき！」～認め合う温かい学級作りを目指して～
平成30年11月20日	東光寺小学校	・学校概要について ・校内研究「自他を大切にし、よりよい学級・学校を目指す児童の育成」～確かな児童理解と望ましい集団活動を通して～
平成31年1月28日	夢が丘小学校	・学校概要について ・校内研究「主体的に考え、学びを深める児童の育成」～伝えあいの中で、豊かな「読み」を育む指導～
平成31年1月29日	日野第七小学校	・学校概要について ・校内研究「一人一人が自分の考えをもち、主体的に伝えようとする児童の育成を目指して」～読む力が高まる指導の工夫～

(計9回)

(9) 教育委員の研究発表会への出席

幼稚園、小・中学校及び教育センターでは、教員の指導方法や指導技術向上のために、研究に取り組んでいる。

研究の成果や課題を市内へ還元・発信する研究発表会には、教育委員、教育指導担当参事、主任統括指導主事、指導主事が出席し、授業研究の状況の把握に努めるとともに指導講評を行った。

開催日	学校名	テーマ	講師
平成30年12月12日	日野第四小学校	主体的・論理的に考えられる児童の育成を目指して ～プログラミング教育を通して～	東京学芸大学教育学部 准教授 高橋 純 氏
平成31年2月8日	旭が丘小学校	進んでからだを育もうとする旭っ子 ～健康的な運動・生活習慣の形成と豊かなかかわり合いのある授業づくりを通して～	横浜国立大学教育学部 教授 梅澤 秋久 氏

(計2回)

開催日	委員会名	テーマ	講師
平成31年2月26日	学ぶ力向上推進委員会 (帝京大学にて)	『児童・生徒が学習対象と出会い、疑問や驚きから発見した追究すべき「問い」を出発点に仲間とともに事実を追究する中で、問いに関する事実やそれらの意味・価値を獲得し、社会への参画へとつなげていく「学びの循環」』を目指した授業創造	帝京大学大学院 教授 中田 正弘 氏

(計1回)

(10) 教育委員の視察研修・連絡会等

教育行政の充実に資することを目的として、教育委員を対象とした、東京都、東京都市町村教育委員会連合会、東京都市教育長会、全国都市教育長協議会等が主催する研修会に参加した。

事業名	実施日	場所	内容
東京都教育施策連絡協議会	平成30年4月20日	中野サンプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度東京都教育委員会主要施策の概要について ・基調講演 「2030年代の社会変革に学校はどう備えるべきか」 国立情報学研究所社会共有知研究センター長 新井 紀子 氏
関東地区都市教育長協議会分科会	平成30年5月11日	ホテルメルパルク横浜	テーマ「学校教育」
東京都市町村教育委員会連合会定期総会	平成30年5月22日	東京自治会館	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度東京都市町村教育委員会連合会事業報告の承認について ・平成30年度東京都市町村教育委員会連合会事業計画(案)について 他
第70回全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会一関大会	平成30年5月17日 ～ 5月18日	一関文化センター	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「一人一人の可能性を最大限に伸ばす、次世代の学校・地域の在り方」 定期総会 文部科学省講話 教育研究部会 分野別研究発表 他
東京都市教育長会研修会	平成30年7月20日	東京自治会館	<p>「グローバル人材の育成と異文化コミュニケーション ～子どもたちに伝えたいおもてなしの心～」</p> <p>講師 筑波大学客員教授 江上 いずみ 氏</p>
東京都市町村教育委員会連合会理事研修会	平成30年7月31日	東京自治会館	<p>「AI時代の教育の変化」</p> <p>講師 東京学芸大学教授・副学長 松田 恵示 氏</p>
東京都市町村教育委員会連合会管外視察研修会	平成30年10月12日	パナソニック東京・リスープ TOKYO GLOBAL GATEWAY	現地視察・体験
平成30年度市町村教育委員研究協議会	平成31年1月23日	文部科学省	<ul style="list-style-type: none"> ・「初等中等教育施策の動向について」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課長 望月 禎 氏 ・分科会「学校における働き方改革について」

事業名	実施日	場所	内容
東京都市町村教育委員会連合会理事研修会	平成31年1月15日	東京自治会館	「新学習指導要領の実現に向けて」 講師 東京都多摩教育事務所 指導課長 榎並 隆博 氏

(計9回)

(11) 教育委員の関係行事への出席

学校教育、生涯学習の充実、発展に資するため、運動会や合唱祭、学習発表会などの学校教育関係行事及び市民体育大会や展示会などの生涯学習関係行事に出席した。

また、現場の状況や実態の把握をより深く行うため、下表の他にも、学校公開(各小・中学校)や学習発表会、展覧会、音楽会(各小・中学校)等に出席した。

開催日	主な行事等
4月 1日	旭が丘地区センター開所式
4月 2日	教職員辞令伝達式
4月 6日	小学校入学式
4月 9日	中学校入学式
4月10日	幼稚園入園式
4月15日	日野市少年野球連盟春季大会開会式
4月15日	日野消防少年団入団・卒団式
4月21日	日野市民大学開講式
4月22日	日野市民体育大会総合開会式
5月10日	退職校長感謝式
5月19日	公民館まつり ～5月20日まで
5月26日	日野市合同水防訓練
5月26日	運動会(日野第一中学校ほか7校)
6月 2日	運動会(日野第七小学校ほか1校)
6月10日	みんなの遊・友ランド
7月 1日	日野市子ども条例10周年記念事業
7月 7日	子どもからの人権メッセージ発表会
8月 4日	日野市中央公民館平和事業
8月 7日	被災地に学ぶ生きる力プロジェクト ～8月9日まで
8月18日	ひのアートフェスティバル ～8月19日まで
8月26日	平和派遣報告会
9月 8日	日野市民文化祭開会式
9月 9日	日野市少年野球連盟秋季大会開会式
9月15日	中学生・小学生サミット
9月22日	運動会(七生緑小学校)
9月29日	運動会(日野第一小学校ほか13校)

開催日	主な行事等
10月 6日	日野市民体育大会陸上競技大会開会式
10月 8日	スポーツレクリエーションフェスティバル
10月14日	手をつなごう・こどもまつり
10月20日	総合防災訓練
10月27日	日野ウォークフェスタ ～10月28日まで
11月 3日	日野市表彰式
11月 4日	中学生と作家の交流事業講演会
11月17日	日野市体育協会60周年記念式典・祝賀会
11月18日	全国育樹祭式典行事
11月23日	MOA美術館日野児童作品展表彰式
12月 1日	日野市民体育大会ロードレース大会
12月 2日	中央大学杯スポーツ大会
12月 9日	たきび祭
12月15日	特別支援学級合同学習発表会
12月22日	七生緑小学校 NHK全国学校音楽コンクール 全国コンクール出場記念 ミニコンサート
1月 5日	日野市賀詞交歓会
1月12日	児童・生徒によるプレゼンテーション大会
1月14日	日野市成人式
1月19日	開校10周年記念式典(七生緑小学校)
1月25日	ひのっ子作品展
2月 3日	中学生「東京駅伝」
2月16日	ブリティッシュヒルズ中学生国内留学報告会
2月16日	日野市サッカー連盟創立50周年記念式典
2月23日	日野市ロープジャンプ小学生大会
3月 1日	日野工業高等学園卒業式
3月 2日	生徒会サミット
3月 8日	東京都立南平高等学校卒業式
3月 9日	東京都立日野高等学校卒業式
3月10日	日野消防少年団技能発表会
3月14日	東京都立日野台高等学校卒業式
3月17日	青年・成人学級修了式
3月20日	中学校卒業式
3月22日	幼稚園修了式
3月22日	七生特別支援学校卒業式
3月23日	ななお「土曜のひろば」閉講式・成果発表
3月25日	小学校卒業式

(計62回)

(12) 教育委員として就任している他の組織の委員等

各組織の運営等に関し、教育的な見地から助言を行うため、委員等として会議に出席した。

組織名・役職	任期	委員名
東京都市町村教育委員会連合会理事	平成28年 5月～平成30年 5月	西田 敦子
東京都市町村教育委員会連合会常任理事	平成30年 5月～平成31年 1月	西田 敦子
東京都市町村教育委員会連合会常任理事	平成31年 1月～令和2年 5月	高木 健夫

IV 主要な取り組みの執行状況の点検・評価について

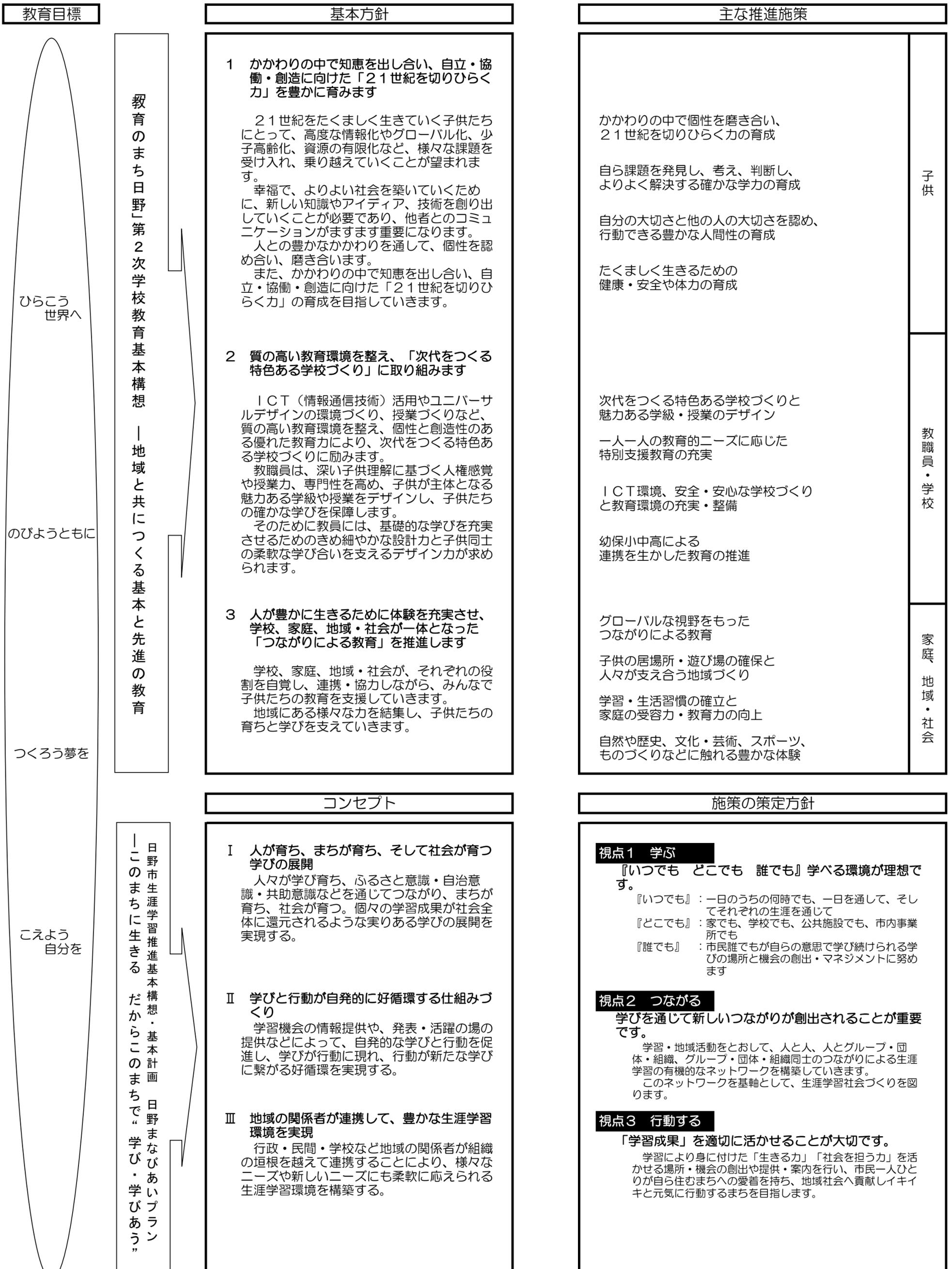
1 教育委員会の主要な取り組み及び評価対象

日野市教育委員会は、平成30年度の主要な取り組みとして実施した事業のうち、27事業を評価の対象とした。

※一部を除き、中央公民館、図書館、郷土資料館の事業については、それぞれにおいて評価を行っているため対象外とした。

主要な取り組み		評価事業数
世の中と結びつきながら ”いのち”を感じ ”いのち”を伝え合い 生きるよろこびあふれる明日へ みんなが参加し ともに知恵を出し合い新たな創造へ		6
基本方針 1 かかわりの中で 知恵を出し合い、 自立・協働・創造に向けた 「21世紀を切りひらく力」 を豊かに育みます	かかわりの中で個性を磨き合い、 21世紀を切りひらく力の育成	7
	自ら課題を発見し、考え、判断し、 よりよく解決する確かな学力の育成	
	自分の大切さと他の人の大切さを認め、 行動できる豊かな人間性の育成	
	たくましく生きるための 健康・安全や体力の育成	
基本方針 2 質の高い教育環境を整え、 「次代をつくる 特色ある学校づくり」に 取り組みます	次代をつくる特色ある学校づくりと 魅力ある学級・授業のデザイン	4
	一人一人の教育的ニーズに応じた 特別支援教育の充実	
	I C T環境、安全・安心な学校づくりと 教育環境の充実・整備	
	幼保小中高による 連携を生かした教育の推進	
基本方針 3 人が豊かに生きるために 体験を充実させ、 学校、家庭、地域・社会が 一体となった 「つながりによる教育」を 推進します	グローバルな視野をもった つながりによる教育	4
	子供の居場所・遊び場の確保と 人々が支え合う地域づくり	
	学習・生活習慣の確立と 家庭の受容力・教育力の向上	
	自然や歴史、文化・芸術、スポーツ、 ものづくりなどに触れる豊かな体験	
生涯学習の振興		6
合 計		27

教育目標（体系図）



教育のまち日野」第2次学校教育基本構想 | 地域と共につくる基本と先進の教育

日野市生涯学習推進基本構想・基本計画 日野まなびあいプラン | このまちに生きる だからこのまちで“学び・学びあう”

世の中と結びつきながら

“いのち”を感じ “いのち”を伝え合い
生きるよろこびあふれる明日へ

みなに参加し ともに知恵を出し合い
新たな創造へ

地域の中で感じ 考え 行動する
地域がステージの 学びへ

子供も大人も共に

1 第3次日野市学校教育基本構想策定

平成30年度で「第2次日野市学校教育基本構想」の期間が終了する。ICTの活用やユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業改善等これまでの取組を基盤としながら、みなに参加しともに知恵を出し合い、主体的で創造的な力を育むことをめざして平成31年度から平成35年度までを実施期間とする「第3次日野市学校教育基本構想」を策定する。

2 学ぶ力、生きる力向上プロジェクト

子供たちが「人・もの・こと」とのかかわりの中で、自ら学び、未来をひらく力の育成をめざす。また、「学ぶ力」の向上を図るため、校内研究を基盤とした小・中学校9年間の学びの創造、カリキュラム開発を行う。また、中学生による被災地との交流により感じ・学んだ経験を広く世の中に発信し、自ら学び、考え、未来に向けて行動する力を育む。
【学ぶ力プロジェクト】・【被災地に学ぶ生きる力プロジェクト】

3 新学習指導要領の趣旨・内容の理解と授業実践の推進—地域と共に創る教育課程の展開・発信—

新学習指導要領の趣旨や内容の理解に基づき、児童・生徒の育成すべき資質や能力を明確にし、学びの質の向上をめざした授業実践を推進する。また、児童・生徒が学びたい、追究したいという気持ちや内発的な言葉や行動を大切にし、児童・生徒の能力や可能性を引き出す教育活動を保護者・地域と共に創る。

4 特別活動の充実 —子供たちによる主体的で創造的な活動—

児童会活動・生徒会活動、学級活動、学校行事等の充実を通して「子供たちによる主体的で創造的な活動」を展開する。

5 特別支援教育の充実

ユニバーサルデザインの考えを取り入れた「すべての児童・生徒が参加し、分かる、そして活用できる」通常の学級における授業改善、平成30年度に全小・中学校に設置が完了するステップ教室・リソースルームでの指導の充実、特別支援学級（固定）における指導の充実を図る。日野市型特別支援教育を通して、児童・生徒一人一人に寄り添いながら、包み込む教育を推進する。

6 個の状況にあわせた不登校児童・生徒への支援

学校には登校するがクラスには入れない、登校したいが病気により自宅療養している、学校にもわかば教室にも通えない等の児童・生徒に対して、個の状況に合わせて様々なアプローチを試み、支援員が寄り添い学習支援を行う。

7 “いのち”のプロジェクトの実施

子供たちと教師と保護者が一緒になって、多様な“いのち”の取り組みを展開し、発信していく。

8 部活動プロジェクト

希望するすべての子供たちが部活動に親しみ、ともに高め合い、人生の基盤となる貴重な体験を積み重ねる日野市型部活動を構築する。

9 学校における働き方改革

「次世代の学校」を実現するため、教員が誇りや情熱をもって使命と職責を遂行できる環境のため、教員の長時間労働の状況を改善し、教員が子供と向き合う時間を確保する。

基本方針 1

かかわりの中で知恵を出し合い、自立・協働・創造に向けた「21世紀を切りひらく力」を豊かに育みます

かかわりの中で個性を磨き合い、
21世紀を切りひらく力の育成

自ら課題を発見し、考え、判断し、
よりよく解決する確かな学力の育成

自分の大切さと他の人の大切さを認
め、行動できる豊かな人間性の育成

たくましく生きるための健康・
安全や体力の育成

(1) 学ぶカプロジェクトの推進

学ぶ力向上推進委員会において、児童・生徒が学習対象と出会い、疑問や驚きから発見した追究すべき「問い」を出発点に仲間とともに事実を追究する中で、問いに関する事実やそれらの意味・価値を獲得し、社会への参画へとつなげていく「学びの循環」の構築を目指す。地域を核とした、中学校区における9年間の学びの連続性・系統性を生かした研究・実践を推進する。

(2) 被災地に学ぶ生きるカプロジェクトの推進

平成26年度から始まった被災地への訪問・気仙沼中学校との交流・ボランティア活動等を通して、生徒が見たこと、感じたこと等から、生徒会サミットの開催、サミット宣言、地域社会に向けたプレゼンテーションの実施、中学生による避難所運営訓練の実施に向けた準備等、社会と結びついた生徒の主体的な取組が実施されてきた。平成30年度は、宮城県気仙沼市立気仙沼中学校の生徒を日野に招き、互いのまちを知り、考え、発信する「つながりによる生徒会サミット」(仮称)を実施する。

(3) 理科教育の充実

理科の面白さを実感し、問題解決能力や科学的な見方、考え方を養う。

- ① 理科教育コーディネーター、理科観察実験アシスタントを活用した理科教育の充実
- ② 理科の楽しさや有用性を実感できる理科ワークショップ、特別プログラムの実施

(4) 英語教育の推進

小学校第3・4学年での年間35時間、第5・6学年での年間70時間の外国語活動を通じた、小学校段階からの英語教育の充実を図る。

- ① 英語教育推進リーダーによる他校への支援の充実
- ② ALTの効果的な活用
- ③ ブリティッシュヒルズ国内留学、TOKYO GLOBAL GATEWAYでの体験型英語学習の実施

(5) 道徳教育の充実

平成30年度に小学校、平成31年度に中学校で「特別の教科 道徳」が全面実施される。

- ① 「考える道徳、議論する道徳」の推進
- ② 道徳教育推進委員会を通じた研究の推進
- ③ 学校の教育活動全体を通じた道徳教育の推進(道徳教育全体計画別葉の作成)

(6) 人権教育の充実

自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることができる子供を育成する。

(7) いじめ防止総合対策の推進

つらい思いや、苦しい思いをしているケース等をすべて拾い上げ、いじめ防止基本方針に基づく対応、指導の充実を図る。

(8) 体を動かす楽しさ・心地よさ向上プロジェクトの推進

運動が苦手・嫌いという子供たちにこそ、体を動かすことの楽しさ・心地よさを心身ともに実感し、運動世界へ誘い、生涯スポーツの基盤づくりを行う。

- ① 幼少期からの保護者とともに体を動かす取組

(9) オリンピック・パラリンピック教育の推進

東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた機運を生かして、全幼稚園・小学校・中学校でオリンピック・パラリンピック教育を推進する。

- ① オリンピアン等の本物に触れる体験を通じた、運動することの楽しさ・心地よさを心身ともに実感する生涯スポーツの基盤づくり
- ② 国際理解教育の推進(ふるさと日野・自国の文化、世界の国や文化を知り、発信する。)
- ③ 多様な他者との共生

(10) がん教育の推進

日野市がん対策推進基本条例、市立病院がある日野ならではの環境を生かし「健康と命の大切さを育む」ことを大切にしながらがん教育の充実を図る。

- ① がん教育教材(中学校版)を活用した保健体育科授業の実施

(11) 食育の充実

子供たちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けられるよう、指導の充実を図る。

- ① 学校給食発の望ましい食生活、生活習慣の確立のための情報発信
- ② 「本物工房ひのマニュアル」に基づいた学校給食の徹底、食の文化と日野産野菜使用給食の推進

(12) 情報モラル教育の推進

誰もが情報の送り手と受け手の両方の役割をもつ中、地域と家庭と連携を図りながら情報モラル教育を充実させ、携帯電話、スマートフォンの使用に対する家庭でのルールづくりをめざす。

基本方針 2 質の高い教育環境を整え、「次代をつくる特色ある学校づくり」に取り組みます

次代をつくる特色ある学校づくり
と魅力ある学級・授業のデザイン

一人一人の教育的ニーズに
応じた特別支援教育の充実

ICT環境、安全・安心な学校
づくりと教育環境の充実・整備

幼保小中高による
連携を生かした教育の推進

(1) 特色ある学校づくり

中学校区を核とした9年間の学びの連続性・系統性について、小・中連携、小・小連携の視点を基に、地域に開かれたカリキュラムの作成、教育実践を推進する。

- ① 学校経営重点計画の作成・評価の実施
- ② 地域に開かれたカリキュラムの見える化
- ② 校長・学校裁量による人材活用

(2) 日野市発達・教育支援センター「エール」を中心にした、教育と福祉が一体となった切れ目のない支援

教育と福祉が一体となった切れ目のない支援を充実させる。

- ① スクールソーシャルワーカーが関係機関と連携した支援を行い、児童・生徒の教育・生活環境等の改善を図る。

(3) 第4次日野市特別支援教育推進計画の取り組み

計画期間2年目として、今後の日野市における特別支援教育をさらに推進する。

- ① 「かしのきシート」による切れ目のない支援情報の共有と活用
- ② すべての小学校・中学校にリソースルーム、特別支援教室(ステップ教室)を設置し、適切な学習支援を実施
- ③ すべての子供が参加し、分かるそして活用できる授業をめざした「ひのスタンダード」の研究と実践

(4) ICT活用教育の推進・充実

個別・協働学習などのICT・タブレット等を活用した授業を展開する。ICT活用を効果的に、皆が知恵を出し合い、共に学び合う授業を創造する。

- ① メディアコーディネーターによる学習用校内LAN・タブレットPCの活用推進の支援
- ② ICT活用教育の実践事例の共有による教員の指導力向上
- ③ 情報セキュリティの強化

(5) 学校図書館の充実

学校図書館検討委員会における協議、実態調査を踏まえ、魅力ある日野市型の学校図書館をめざし、具体的な教育実践を推進する。

(6) 学校施設環境の整備

平成28年度に策定した学校施設整備に関する中長期計画に基づき、教育環境の向上を図る。

- ① 安全で衛生的なトイレ環境の整備
- ② 校舎の長寿命化に向けた、老朽化対策の実施
- ③ 児童数の増加が見込まれる豊田小学校の増改築・基本設計

(7) 子供の安全・安心対策事業の実施

地域ぐるみで子育てに取り組み、子供たちが地域に見守られながら安心していきいきと成長できる環境を整える。

- ① 日野市通学路交通安全プログラムに基づく通学路の合同点検の実施
- ② 通学路に防犯カメラを設置
- ③ スクールガードボランティアによる登下校時・放課後の安全確保

(8) 学校における食物アレルギー疾患対応の充実

学校給食における食物アレルギー疾患対応マニュアルに基づく安全体制の確立

(9) 幼・保・小・中・高連携教育の推進

地域を核とした校種を越えた教員の交流や連携教育の推進

- ① 幼・保・小連携教育推進委員会の充実
- ② 小・中・高連携教育の充実
- ③ かしのきシートの引き継ぎに関する中・高連携

(10) 教育センターと連携した研修の充実

若手教員育成研修及びセンター所員、教員指導員による授業観察・指導・支援の実施

(11) 日野サンライズプロジェクトの充実

登校支援コーディネーターを核とした各学校での不登校児童・生徒への支援の充実と、関係機関と連携した取組の充実を図る。

(12) 個の状況にあわせた不登校児童・生徒への支援

学校には登校するがクラスには入れない、登校したいが病気により自宅療養している、学校にもわかば教室にも通えない等の児童・生徒に対して、個の状況に合わせて様々なアプローチを試み、支援員が寄り添い学習支援を行う。

(13) わかば教室での不登校児童・生徒への支援

わかば教室における人とのかかわりあいや季節毎の行事等の感動体験を通し、子どもたちの元気を育み、学校復帰や社会的自立に向けた支援の取組の充実を図る。

- ① 個別指導、集団活動、体験活動等を通して、学習意欲、学力の定着、好ましい学習習慣・生活習慣、社会性と自立心を育む。
- ② eラーニング等を活用した個別指導や小集団指導による学習指導支援の充実
- ③ カウンセリングや進路指導などの個別支援の充実

(14) 日野市子どもの貧困対策に関する基本方針に基づく取組

「日野市子どもの貧困対策に関する基本方針」に基づき、行政と地域が一体となり子どもの貧困対策を推進する。

基本方針 3 人が豊かに生きるために体験を充実させ、学校、家庭、地域・社会が一体となった「つながりによる教育」を推進します

グローバルな視野をもった
つながりによる教育

子供の居場所・遊び場の確保と
人々が支え合う地域づくり

学習・生活習慣の確立と家庭
の受容力・教育力の向上

自然や歴史、文化・芸術、スポーツ、
ものづくりなどに触れる豊かな体験

(1) 郷土教育の推進

児童・生徒が自分の住む地域や郷土(ふるさと日野)を知り、“ふるさと”として愛し、誇りに思える子どもたちに育成するための郷土教育プログラムを開発し、授業で活用できるように支援する。

- ① 地域の自然や歴史の教材化
- ② 教育センターを中核に幼稚園・小学校・中学校・郷土資料館・新選組のふるさと歴史館・図書館・生涯学習課等との連携
- ③ 七生地域の郷土教育に必要な学習資料「(仮称)歩こう調べよう ふるさと七生」を作成・活用
- ④ 郷土資料館による、子供が郷土史を理解するための取組(学校への出張授業や学校教育で活用できるデータ等の提供)
- ⑤ 副読本(ひのっ子新選組探検隊等)を活用したふるさと学習
- ⑥ 日野の近代化遺産(日野煉瓦・桑ハウス)のリーフレット作成

(2) 学校支援ボランティア推進協議会事業の充実

地域で学校を支える仕組みの充実を図る。

- ① 地域、家庭、学校の連携・協働の強化
- ② 講師等人材リストの作成
- ③ 「地域未来塾」を活用した放課後の学習支援の拡大(大坂上中、三中、滝合小に加え平山中、平山小でも開始)

(3) 土曜日等の学習支援等構築事業の推進

「小学生土曜算数教室」「土曜科学実験教室」「二中ものづくり教室」の充実

(4) PTA活動への支援・協働

学校・保護者・地域が一体となり、学校や児童・生徒を支えられるよう、PTA活動の支援・協働を行う。

- ① PTA活動に役立つ行政や地域情報の周知・共有
- ② 教育委員や行政との懇談会の充実
- ③ “いのち”のプロジェクトの実施

(5) 家庭教育学級事業の充実

各校の家庭教育学級担当役員への支援(情報提供・相談など)

(6) 「本物」を体験・体感できる機会の創出・拡充

児童・生徒が歴史・文化を体験できる機会を設け、日野市や日本の歴史文化等に親しむ心情を育む。

- ① 日本・地域の伝統・文化
- ② ものづくり
- ③ 農業体験
- ④ 文化財に関する現場見学会等
- ⑤ 紫波町との連携

(7) 児童・生徒の芸術文化体験の充実

児童・生徒が様々な芸術・文化を体験したり自ら工夫・創造・表現したりすることを通して、芸術文化に親しみ、表現する喜びを育む。

- ① 児童・生徒芸術月間(図工展・書初め展イオンホールでの同時開催)
- ② 書くことを通して表現する喜びを味わう体験活動(はがきや手紙で気持ちを伝えよう。短歌・俳句で感じたことを短い言葉で伝えよう)
- ③ 小学校連合音楽会の開催
- ④ 中学校音楽鑑賞教室・合唱祭・ひのっ子プラス&ボイスの開催
- ⑤ 美術鑑賞教室の開催

(8) 第3次子ども読書活動推進計画の取組

「第3次子ども読書活動推進計画～読書でひろがる ひのっ子の力～」の推進

- ① 子供たちが、さらに身近に本と出あえる環境づくり
・学校図書館への支援
- ② 子供たちが、自ら読書の楽しさを発信する取組
・中学生と作家の交流事業の実施
- ③ 子供と本をつなぐ活動をする人たちが連携する仕組みづくり
・子供の読書に関わる地域のボランティア団体との連携

(9) 食への関心を高める「ひのっ子シェフコンテスト」の実施

参加児童のアイデアを活かした日野産野菜を使ったメニューの学校給食への展開

(10) 家庭訪問の実施

学校だけでなく地域や家庭も含めた子供たちの姿、背景、環境を理解し、教育活動の充実を図る。また、防犯・防災、災害時の集団下校や引き渡しなどの視点から、子供たちの住む地域や家庭を知る。さらに、教員が多様な家庭や育ちを学ぶことを通して、力量を高める。

- ① 支援の必要な児童・生徒に対して、関係機関と連携した支援を行う。

日野市教育委員会生涯学習部門の主要な取組（平成30年度）

【日野市生涯学習推進基本構想・基本計画に沿った分類】

★印：重点取組

視点1 学 ぶ

1 いつでも どこでも 誰でも学べる環境整備

- 【生涯学習課】★国登録有形文化財「桑ハウス」（旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室）の保存活用
 - ・通年開設をめざし保存修復を進める
 - ・文化財としての利活用を具体化する
 - ・市民への周知と市民との協働を進める
 - ・全国への発信と絹遺産関連都市や団体との連携を進める
 - 家庭教育学級講演会の充実
 - ・社会変化の中で求められているテーマ設定と参加しやすい条件設定を検討する
 - 障害者訪問学級の活動支援
 - ・障害者の生涯学習に対する国都の動向の情報収集
 - ・関係機関、関係各課との連携を図る
 - ・庁内職員への周知も視点においた講習会の開催
 - 小中学校を利用したスポーツ開放・教室開放の環境整備
 - 【中央公民館】★地域の特色を生かした公民館事業の実施
 - ・地域特性と課題を踏まえた事業を実施する（学びのモデルづくり）
 - ・地域に出向いて事業を展開し、地域偏在の解消に努める
 - 学びの場の充実
 - ・多様な社会課題に応じた学習テーマでの事業を展開する
 - ・学びから、地域活動の担い手となる 人材育成を図る（地域デビュー）
 - 子ども、若者を対象とした事業の拡充
 - ・学びや体験の機会の提供
 - ・市内小中学校、高校、大学、児童館等との連携
 - ひの市民大学の充実
 - ・市民企画による「学ぶ→出会う・つながる→広がる→深まる→生まれる」をコンセプトとした特色ある講座を実施することで、学びの循環を深める
 - ・大学連携コースによる多様な学びの提供
 - 【図書館】★第3次日野市立図書館基本計画（平成30～34年度）の推進
 - ・くらしの中に図書館を一本と出あい、人と出あう「知のひろば」が地域の文化を創る-
 - ★移動図書館の旭が丘におけるモデル事業の実施
 - ・新旭が丘地区センターへの巡回を開始し、地域の課題と特性を踏まえた新たな巡回モデルにより、地域の大人・高齢者と子供がつながる仕組みづくりを図る
 - ★第3次子ども読書活動推進計画（平成27～31年度）の推進と第4次計画の策定準備
 - ★図書貸出管理システムの更改
 - ・利用者の利便性向上、移動図書館オンライン化による業務の効率化等を実現（平成31年1月稼働予定）
 - ★中央図書館リニューアルプランの検討
 - 学級文庫用図書の配本拡大（特別支援学級含む）
 - 学校図書館との連携
 - ・子どもが本に親しむ環境づくり
 - ・学習に必要な資料の情報提供及び搬送
 - 図書館利用に障害のある方へのサービスのPRの充実
 - 外国人へのサービス検討
- 【郷土資料館】★「（仮称）歩こう調べよう ふるさと七生」の冊子作成
 - 文化財の収集保管方法等の構築及び活用できる資料としての整備
 - ・保管スペースの確保及び資料の調査と整備
 - 各収蔵展示室の効率的な運用と計画的な収蔵展示を実施

2 学びに関する様々な情報提供・相談機能の充実

- 【生涯学習課】★文化財の調査・保護・啓発
 - ・日野の近代化遺産のリーフレットを作成
 - ・現地見学会の開催
 - ・映像による文化財の紹介
 - ・埋蔵文化財発掘調査事業の進行
 - ・日野市無形民俗文化財「日野の祭ばやし」への支援
- 学びあい つながりあい情報サイトの開設※行動計画①
 - ・生涯学習ポータルサイト「Hi Know（ひのう）」の登録団体数とまち記者活躍の場を増やす取組
- 「ひの21世紀みらい塾」（市民・職員講師派遣事業）の充実（お試し発表会の開催）
- 分かりやすく魅力的なホームページづくり
- 【中央公民館】★談話室を活かした情報発信のしくみづくりを進める
 - ・日野宿周辺施設（公民館・児童館・図書館・社会福祉協議会・ボランティアセンター）とご近所会議を定例的に開催、情報交換の実施
- 公民館事業の情報発信力の向上
 - ・分かりやすく魅力的なホームページの充実
 - ・新たな発信ツールとしてSNSの活用
- 【図書館】★中学生と作家の交流事業の実施
 - ★子どもの読書活動の普及・啓発のため「おはなしピクニック」を開催
 - これから親になる方、乳幼児とその保護者への絵本や図書館利用の案内
 - 読書案内・レファレンスサービスのPR
 - パスファインダー（調べ方の紹介）の作成と配布
 - 地域・行政資料の電子化検討
- 【郷土資料館】★特別展「日野の自然～鳥とともに～」の開催
 - 郷土資料館ホームページによる情報提供の充実（随時更新を）
 - 展示、講演会等と連携した現地見学会の開催
 - 調査依頼や情報提供等のレファレンス業務の充実
 - 豊田旧名家の古文書等調査

視点2 つながる

1 顔が見えるネットワークづくり

【生涯学習部門 1 課 3 館】

★ひの学人ネットワーク会議の設立※行動計画②

・平成 29 年度に実施したひの学人ネットワーク会議（生涯学習懇話会）の拡充

【生涯学習課】○“まなび創造”ネットワークの構築※行動計画⑤

・庁内関係課連携会議の開催

【中央公民館】★自主サークル間の新たな交流のかたち（公民館利用者連絡会等）を検討

★地域をステージとした事業の展開

・地域の力を活用した高幡台分室の活性化事業：コンセプト「人と人を結ぶもう一つの学び舎」

・大学、自治会、子供会、育成会等地域にある市民力の活用

【図書館】★地域館における地域との連携

★子どもの読書に関わる地域のボランティア団体との連携

・継続的な懇談会の開催

○子どもの読書活動に関する子ども関連施設職員との情報共有の推進

・協働作業によるおすすめ本リストの作成

【郷土資料館】○体験学習や文化の伝承事業及び文化財を通じたネットワークづくり及び情報発信

・文化の伝承及び調査を通しての人脈発掘とネットワークづくり

2 教えあう 交流する仕組み・居場所づくり

【生涯学習課】○家庭教育学級の充実

・各校 P T A 家庭教育学級担当役員への支援（情報提供・相談等）

○笑顔あつまれ！発表会の開催（準備）※行動計画③

・生涯学習に関する活動団体や個人の発表会の開催（「ひの 21 世紀みらい塾」お試し発表会を兼ねる）

【中央公民館】★「新しいことが生まれるみんなの居場所」としての機能充実

・公民館談話室から広がる居場所づくり ・ゆるカフェ時間の開催

○公民館まつりやひのアートフェスティバルにおける市民参加の拡充

【図書館】○本を通じた交流の機会としての読書会の実施

○青少年が交流・発信する場としての「ヤングスタッフ」事業の推進

【郷土資料館】★「たきび」の詩人 巽聖歌の顕彰事業（たきび前夜祭及び聖歌の展示）

★新旭が丘地区センター内のミニ展示スペースにおける巽聖歌等に関する展示

○自主的学習活動への支援連携事業の推進

・「真慈悲寺の調査」「七生丘陵の調査」「勝五郎生まれ変わり物語の調査」等の支援

視点3 行動する

1 自己実現・社会還元の間や情報提供

【生涯学習課】★「地域未来塾」を活用した放課後の学習支援開催校の拡大

・大坂上中、滝合小、三中での学習支援事業の充実 ・平成 30 年度より平山小と平山中で実施

・今後計画的に実施校を増やすため、小中校長会等で呼びかけを行う。

★土曜日等の教育支援等構築事業の推進

・「小学生土曜算数教室」「土曜科学実験教室」「二中ものづくり教室」を充実実施

○学校支援ボランティア推進協議会事業の推進

・活動内容の市民への周知 ・講師等人材リストの作成 ・市 P 協、各校 P T A との連携強化

○なお土曜のひろばの充実

・活動内容と成果を広く市民に周知

○保育協力員制度

・庁内周知による活躍の場の拡大 ・保育協力員を増やす取組

【中央公民館】○生涯学習による自己実現を高める機会を提供

・学びから地域に貢献できる人材（リーダー）の活躍の場

・リーダー養成、地域デビューの講座の実施 ・図書館や地域協働課等との連携

【図書館】★地域で子どもの読書に関わる人の育成

・絵本読み聞かせ講座等の実施

○図書館への来館が困難な人への宅配ボランティア事業の推進

【郷土資料館】○郷土史を理解するための取り組み

・学校への出張授業等 ・学校教育で活用できるデータ等の提供

○展示、見学会等により市民が郷土史を語れる事業の実施

○各種広報媒体を利用した日野の文化財の情報発信

2 心とからだの健康づくり

【生涯学習課】○ハヶ岳高原大成荘の利用者拡大

・大成荘利用で健康づくりや生涯学習につながる情報発信

【中央公民館】○食への関心を高める「ひのっ子シェフコンテスト」の実施

・参加児童のアイデアを活かした日野産野菜を使ったメニューの学校給食への展開

【図書館】○平山図書館に開設した闘病記文庫の PR

評価対象事業一覧（平成30年度の主要な取り組み）

※中央公民館、図書館、郷土資料館の一部事業を除く

学校教育関係

基本方針	事業No.	主要な取り組み	ページ
世の中と結びつきながら “いのち”を感じ”いのち”を伝 え合い 生きるよろこびあふれる明 日へ みなが参加し ともに知恵を出し合 い新たな創造へ	0-(1)	第3次日野市学校教育基本構想策定（学校課）	P35
	0-(2)	特別活動の充実 -子供たちによる主体的で創造的な活動-（学校課）	P36
	0-(3)	個の状況にあわせた不登校児童・生徒への支援（学校課）	P37
	0-(4)	“いのち”のプロジェクトの実施（学校課）	P38
	0-(5)	部活動プロジェクト（学校課）	P39
	0-(6)	学校における働き方改革（学校課）	P40
基本方針 1 かかわりの中で 知恵を出し合い、 自立・協働・創造に向けた 「21世紀を切りひらく力」 を豊かに育みます	1-(1)	学ぶカプロジェクトの推進（学校課）	P41
	1-(2)	被災地に学ぶ生きるカプロジェクトの推進（学校課）	P42
	1-(3)	英語教育の推進（学校課）	P43
	1-(4)	道徳教育の充実（学校課）	P44
	1-(5)	体を動かす楽しさ・心地よさ向上プロジェクトおよびオリンピック・パラリンピック教育の推進（学校課）	P45
	1-(6)	がん教育の推進（学校課）	P46
	1-(7)	食育の充実（学校課）	P47
基本方針 2 質の高い教育環境を整え、 「次代をつくる特色ある 学校づくり」 に取り組みます	2-(1)	スクールソーシャルワーカー（SSW）（教育支援課）	P48
	2-(2)	第4次日野市特別支援教育推進計画の推進（教育支援課）	P49
	2-(3)	ICT活用教育の推進・充実（学校課・ICT活用教育推進室）	P50
	2-(4)	学校施設環境の整備（庶務課）	P51
基本方針 3 人が豊かに生きるために 体験を充実させ、 学校、家庭、地域・社会が 一体となった 「つながりによる教育」を 推進します	3-(1)	郷土教育の推進（教育センター・郷土資料館）	P52
	3-(2)	学校支援ボランティア推進協議会事業の充実（生涯学習課）	P53
	3-(3)	土曜日等の学習支援等構築事業の推進（生涯学習課）	P54
	3-(4)	児童・生徒の芸術文化体験の充実（学校課）	P55

生涯学習関係

視点	施策の柱	事業No.	主要な取り組み	ページ	
1 学ぶ	1 いつでも どこでも 誰でもが 学べる環境整備	4-(1)	生涯学習 の振興	国登録有形文化財「桑ハウス」（旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室）の保存活用（生涯学習課）	P56
		4-(2)		第3次子ども読書活動推進計画（平成27～31年度）の推進と第4次計画の策定準備（図書館）	P57
2 つながる	1 顔が見えるネットワーク づくり	4-(3)		ひの学人ネットワーク会議の設立（生涯学習課）	P58
		4-(4)		「地域未来塾」を活用した放課後の学習支援開催校の拡大（生涯学習課）	P59
3 行動する	1 自己実現・社会還元の間 や情報提供	4-(5)		学校支援ボランティア推進協議会事業の推進（生涯学習課）	P53
		4-(6)		土曜日等の教育支援等構築事業の推進（生涯学習課）	P54

評価対象事業 計 27事業

2 点検・評価

主要な取り組み27事業について点検し、25ページ以降「4 個別事業の評価」のとおり、自己評価を行った。その結果、おおむね初期の目標を達成したと考える。

3 学識経験者の意見

(1) 学校給食供給農家・元日野市農業委員会委員 伊藤 義男

①「0－(1) 第3次日野市学校教育基本構想策定」について

社会の変化が急速に進んでいる状況において、将来の予測が厳しい社会を子供たちが前向きに生きていくため、2019年度～2023年度の今後5年間の学校教育基本構想を策定するにあたり、「学びと育ちの基本構想検討委員会」を立ち上げた。

委員は学識経験者・保護者・地域・公募委員等22名をメンバーとして、講師を招き、その講演の内容から検討委員一人ひとりが、子供たちに未来に向かってどんな力を育んでほしいかを考え、議論を積み重ねた。会議としては9回開催され、基本構想の素案の作成に繋げていった。

そこには「すべての“いのち”がよるこびあふれる未来をつくっていく力」をキャッチフレーズに基本構想の冊子も斬新なデザインで子供たちにも親しみやすいものとなった。

この基本構想策定までの経過と内容、冊子の親しみやすさを評価したい。

②「0－(5) 部活動プロジェクト」について

生徒にとって望ましい部活動の実施環境を構築するため、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育む日本型学校教育の意義を踏まえ、部活動プロジェクトとして委員会を立ち上げ、部活動の運営や休養日・活動時間等について検討し「日野市における部活動に関する方針」を策定した。今後はその方針に基づき、各学校における実施の指導・支援に力を注ぐことが必要である。

③「0－(6) 学校における働き方改革」について

東京都の「学校における働き方改革推進プラン」では、週当たりの在校時間60時間を超える教員をゼロにするという当面の目標を立てている。日野市では平成30年6月に教員の勤務実態調査を実施した。その実態調査の結果を分析して、教員の長時間の労働の解消を図るため平成31年3月に「日野市立小・中学校における働き方改革推進プ

ラン」を策定した。

小・中学校教員のタイムマネジメント力の向上のため、また在校時間の把握と意識改革の推進のため、小・中学校各1校パイロット校を決定した。それにより、タイムマネジメントに関する教員の自発的な意識改革を促す、より具体的な検討を行った。

全小・中学校に出退勤管理システムを導入して、自らの在校時間の可視化ができる仕組みを構築して、働き方に対する意識改革に努めた。

学校を支える人員体制の確保では、スクール・サポート・スタッフを平成30年4月から小学校15校・中学校4校に配置され、より本来業務に専念できるようになった。

部活動の負担の軽減では、平成30年度では、各校どういう部活動の人材が必要かなど各校の部活動の実態調査をするとともに負担感の大きい一部の部活動に対し部活動指導員の配置を行った。

働き方改革推進プランに基づき計画を確実に実行すること。また教員が誇りとやりがいを持って職務に従事できる環境を整備するとともに、働き方に対する教員の意識改革により、質の向上を図ってほしい。さらに国や都に対しても、問題点を指摘しその支援を要望することも必要であろう。

④「1－(2)被災地に学ぶ生きる力プロジェクトの推進」について

平成26年度から被災地を訪問し、現地の中学生との交流を通して、震災で得た「生きかた・人としてのあり方・地域の復興のために何をすべきか」等を考えることにより「生きる力」を育むとして始まったプロジェクトも5年目を迎えた。

平成30年度は気仙沼中学校の生徒を日野市へ呼びたいとの生徒の提案を受け、平成30年8月8日～8月10日の2泊3日で交流会を開催した。交流会では「それぞれの郷土の未来について、自分たちにできることは何か」をテーマに交流を行い、また被災地の語り部の尾形幹男さんの講演により、改めて東日本大震災の様子を共有した。その後、地域の人々を交えて「伝えよう未来へ 創ろう未来を！～私たちが未来へ向けてやるべきことは何か～」をテーマにパネルディスカッションを行った。また、会場では気仙沼復興支援物産展も開催され、気仙沼の特産品も販売された。

こうしたプロジェクトの内容については、各校で報告会を開き、事後学習会を行い、平成31年1月の「児童・生徒によるプレゼンテーション大会」において、気仙沼中学校との交流の様子を報告し、中学生としてどのような未来を目指していくのかについて発表しその想いを共有した。

課題にもあるように、被災地の復興と共にプロジェクトの内容が変化していく中で、現地の中学生との交流を通して多くの課題を見つけ、解決していく力を培わせてくれた、繋がりのできた気仙沼市・美里町との「つながりによる生徒会サミット」(仮)はぜひ実現してほしい。

⑤「1－(6) がん教育の推進」について

この事業は、日野市がん対策推進基本条例を持ち、市立病院のある環境を活かして、健康と命の大切さを育み、がん教育の充実を推進することを目的としている。

平成30年度は、市立病院の医師・中学校の教員をメンバーとした「がん教育教材作成委員会」が中心となり、中学校で使用するがん教育教材を開発して全中学校に配布した。また市立病院の医師による児童・生徒向けのがん教育の出前授業も8回行われた。小・中学校の教員へのがん教育の研修も行われ、各校1名の25名が参加した。

この出前授業等が他の自治体に先駆けて実施されているのは、市立病院のある環境を活かした日野市ならではの事業であるが、課題にもあるとおり出前授業の継続的な実施には工夫が必要であろうが、ぜひとも拡充・推進してほしい。

⑥「1－(7) 食育の充実」について

日野市の学校給食は、地産地消の先駆けとして全国的に知られている。

食育の取り組みとして、11月19日は「日野産野菜給食の日」と定めて全校で地産野菜を多く使った献立を実施した。11月24日は「だしで味わう和食の日」を実施して、ひと手間かけた手作りの「だし」について各クラスで子供たちに周知させ、保護者へもアピールした。また、全国学校給食甲子園に出場した日野第一小学校が優秀賞「特に味のバランスに優れていた」を受賞した。そして市内全校で受賞した同じ献立で給食を実施したところに日野の良さが表れている。

中学3年生のテーブルマナー教室も実践女子大学の協力により全校で実施された。講義と実践により基本的な食事のマナーを学ぶ良い機会となったことだろう。

続いて顔の見える食育活動として、地域の生産者の協力により小学校では「米作り・野菜の種まきから収穫まで等」、中学校では職場体験で「野菜の収穫・種まき・稲かり等」がなされた。

また地産地消を進めるために、生産者と栄養士、調理員が連絡を密にとり旬の野菜等に合わせて献立を立てたり、給食で良く使用する野菜を契約栽培して確保するなどして、日野産野菜利用率が平成30年度は29.8%となり、3年連続で「日野食育推進計画」における目標値25%を超えた。

学校・行政・地域等の連携・協力により大いに成果をあげているが、課題にもあるように、保護者や地域にも食に関する情報を発信し、食育につながる取り組みに期待したい。

(2) 版画家 蟹江 杏

①学校における働き方改革について

まず、出退勤管理システムが導入されたとの事ですが、今までなかった事に驚き、さぞかし大変だっただろうと先生方に頭の下がる思いがしました。

教員、職員の方々がどれだけの時間を働いているのか、自らが正確な数字で確認できる事だけでも健康管理などのためとしても大変役に立つ事だと思います。

スクール・サポート・スタッフ、副校長補佐の導入も教員の方々の事務的作業の負担が減らせるのならばとても有効で、必要だと感じました。

現場の先生方が、事務的な作業ばかりに追われて、気持ちに余裕がないと、肝心の子供たちの小さな変化や問題に丁寧な対応ができなくなるのでは、と想像します。

また、私が今まで、出会ったり携わってきた小学校や中学校の教員の方々から感じた印象を正直に申しますと、忙しすぎるせいで、あまりご自分の時間がなく、学校の住人のようになっているようでした。(別の地域や、自治体ですが)

子供たちを社会に送り出す役割のはずのが、ご自身が社会とつながりをあまり持っていない印象でした。人それぞれですし、一概には言えませんが、働き方改革により、教員の一人一人が「先生」という立場を離れて一人の人間として、社会と関わったり、有意義に使うことのできる自分の時間を持つ機会が増える事で、子供たちへの対応は勿論、保護者の方との対応の仕方へのヒントなども得られるのではないかと思います。

働き方改革をどのようにしていくかは、高度成長期を働き抜いてきた私たち日本人にとって、どの業種にも難しい問題だとは思いますが。

まして学校は「人間」を扱う現場ですから、簡単に労働時間をカットすれば良いのか、というとそうもいかないでしょうし、誰でも良いから人を増やしても、かえって悪影響だったりもします。

臨機応変な対応をしようと言えないのかもしれないかもしれません。

いずれにしろ、風通しの良い教育現場になる事を望みます。

②第3次日野市学校教育基本構想について

未来に向けた学びと育ちの基本構想について

学び、支援、遊び、生活、つながり、いのち、地域、世界へと、いくつか第1回評価会議にてお話がありましたが、ご説明を拝聴し、これら全てを踏まえた構想の指針は「人(こども)は多様であり、それぞれの良さを認め合い かつ 最大限にそれを発

揮できる環境を作る事」を目標に掲げられてるのだ、と私なりに受け取りました。そして大きく共感したしだいです。

子供が生活の中で自分らしく生き活きと存在する事のできる世界を大人たちがどのようにサポートしていくか、また、作っていくのか。

言葉で言えば美しいですし、簡単ですが、そもそも私たち大人の社会ですら達成できていないこのテーマを教育として牽引していくという事は、とても難しい事だと思います。

お互いが認め合い、支え合い、さらに良さを引き出しあう、、、子供たちにこれをどう伝えていくのだろう、、、お話を伺いながら、答えのない難問に、身の引き締まる思いが致しました。

このように、私自身がパンフレットを拝見しお話を聞きするだけで、その事について改めて考え見直すきっかけを頂いたように、もっと地域の方にもこの基本構想を共有して頂きたいなと思いました。

答えがないにもかかわらず、けれど無視しては絶対にいけない大切なテーマについて、私たち大人が率先して、悩み、模索し、挑戦し、未来のために思考することを決して止めない姿を子供たちに見せたいです。

そのためには、まず、本当の「認め合い」の意味や、「命」について、教育に携わる方々が真剣に話し合っ頂き、むしろ答えが出てしまっはおかしいはずの、この壮大なテーマの答えを求め、大いに議論して青臭く白熱する姿を地域の大人や、子供たちに見せてくれたら、私も、さらに巻き込まれてしまいそうですし、きっとほかの皆さんも同じ事になるのではないかと思います。

学校という場所は、生き物でなくてはならないと常日頃から思っています。

時代の変化の中、常に呼吸し、形を変えていくのが健全であると思うのです。

教育に携わる方々は、このすばらしい生物を、眠らせる事なく、まして殺す事なく、いつの時代も変化を怖がらず育ててほしいです。

③学校支援ボランティア推進協議会事業の推進について

働き方改革にも関連していますが、ボランティアの方々が参加して下さる事で教員の実務的負担を減らす事が出来るのは、とても良い事だと思います。

また子供たちにとっても、家族や学校の先生以外の大人たちと触れ合う事はとても大切な機会です。

「You are loved from all over the world～あなたは世界中から愛されている」と子供たちに伝え続けたいという事が私の一つの目標です。

この取り組みはそこを彼らに伝える事のできる機会になる可能性があります。

コーディネートをどんな方がするのかで、偏りが出てしまう事もあるのではと想像しますが、なるべく幅の広い年齢でいろいろなご職業の方が適材適所で参加して下さるのが良いのだらうと思いました。

子供たちを通して、地域の繋がりもできて、新たなコミュニケーションが生まれますし、参加する大人にとっても学びに場になると感じます。

この取り組みを私は今まで知らなかったもので、もっと幅広く周知して頂ければと思います。

④第4次日野市特別支援教育推進計画の推進について

発達障害や学習支援対象の子供たちについて、評価会議でお話を聞いた取り組みを、さらに効果ある支援にするためには、どうすればいいのかな、と素人の私なりにこの文章を書くに当たっても、色々考えましたが、正解は見つかりませんでした。

学校、地域、家庭生活を送る中で、生きにくいと感じる事、支障がある子供たちへの対応は、ある一定の特徴があったとしても、やはり、一人一人抱える問題も、性格も家庭環境も感性も全て違うので、何が彼らにとって正解なのかはわからないし、発達障害云々ではなくどの子供たちにも言えますが、取り組みの結果はすぐに出るものではなく、彼らが大人になって社会に出た時に活かされているのかが、わかる事なので、長期的プランで一人一人に向かいあい、その後の観察やヒヤリングを丁寧にする事が大切だと思います。

わたしは、アートを通じて発達障害と呼ばれる子供たちとも沢山の絵を描いてきました。

正直に申しますが、残念ながら、ユニークさ故に学校に馴染めない子供たちが学校にいない事では不適應を起こす構造に疑問を感じています。

何しろ私もその一人だったからです。

私の経験でしか話せないのですが、私がそうであったように、彼らには彼らの新しい学びの場所や、型にはめる事のない自由な学びのスタイルが必要です。

それは決していまの学校教育システムと矛盾するものではないと思っていますし、むしろ両輪であるべきです。

なんとも抽象的ですが、教育に関係する全ての方々が学びの多様性を切り拓く挑戦をして頂けたらとおもいます。

⑤食育の充実について

第1回の評価会議にて給食についてお話を伺い単純に、なんて美味しそうなんだろう！なんて楽しい給食だろう！と思いました。

全国給食甲子園での実績もすばらしいし、誇りに思います。

農家の方々との連携を取りながら行う作り手の顔の見える食育は、最先端の教育だと感じました。

子供の頃から第一次産業を身近に感じ、体験して学び、理解することは、ゼロから何かを生み出す根本的な想像力につながる事です。

とても芸術教育と似ていると、絵を描きながら常日ごろから私自身も感じています。

まして、食という、生きる事に直結しているところから、美味しく楽しく学べる取り組みは、日野市ならではでないかと感心しました。

給食の時間は大人になった今でも鮮明に覚えている一コマです。

子供たちのその一コマが、将来彼らが作るだろう家族の食卓に生きる事も望みます。

⑥児童 生徒の芸術文化体験の充実について

まず、何故、芸術に触れる事が子供たちにとって必要なのか？という根本的な事を教育に携わる大人たち一人一人が考えたいと思います。

その為には、芸術とは？？という事という哲学を考えてほしいという概念的な事のみではなくて（もちろん人間が生きる上でこの話も大切だと思いますが、、）アート（芸術）が社会的にどんな存在であるべきか、又は どのような役割ができるのか。という議論が必要ではないかと思います。

これも、人それぞれの答えがあるわけですので、ここでは私個人の考えを少し記します。

私は、アートとは、「世界にはわからない事がある、全てに答えの出ず事が正しいこととは言い切れない」という事を表す一つ的手段とも考えています。

誤解がないように記しますが、物事を曖昧にする事の薦めではありません。

要するに、数字や理屈だけではない世界の存在への気付きです。

とはいえ、だからこそ、人間はわからない事を探求し続け、答えを求め続ける矛盾を抱えた生物であると思います。

理解不能な抽象画から目が離せなくなり、美しいと感じる事。

なのに隣で一緒に見ている友達はその絵画を醜いと感じているかもしれない。

ある旋律を聴くと何故かわからないけど涙が流れる事。

だけど一緒に聴いている友達には楽しい曲に聞こえるかもしれない。

そんな当たり前の事に人はなかなか気がつかないものです。

そこに気がつくきっかけを作り、想像力の種を植える事のできる学問（敢えてここでは学問と呼びます）が芸術であると私は考えます。

花が美しいのは、花自身の中に美しさがあるからなのか、私たち人間の中に花を美しいと感じる力があるからなのか、という議論があります。

芸術を媒体にそのような話を子供たちと大人が一緒になってできる環境があれば良いなと思います。

想像力は学習意欲とともに深い因果関係があると感じます。

例えば、どうしてこんな難しい数式を解かなきゃいけないの？という疑問テストで良い点数を取る為だけにする勉強は本当の意味の学びでないし、身に付きにくいはずです。

けれど、子供たちが自ら自分たちの明るい未来を作っていく力、それを想像する力を育む事で進んで本当の意味の学びの欲求を呼び起こせるのではないかと思います。

アートにはその力があると私は信じています。

美術館訪問については、その都度、子供たちに今、何を伝えるべきなのか、その為にはどんな美術館で、どんな企画展の誰のどんな作品を見せるのかを、事前に専門家のアドバイスをもらいながら吟味して選んでいければもっと効果の出せる充実した機会になるのではないのでしょうか。

私は美術専門なので美術館について書きましたが、音楽や演劇鑑賞などでも同じ事なのではないかと思います。

美術、音楽は、本当は誰にも点数をつける事のできないはずである学科だと思います。

けれど、現状、点数はつけなくてはいけないので、担当する教員の方にとって、とても難しい教科だと察します。

素養があるにもかかわらず、学校の美術や音楽の授業を受けたことによって、かえって苦手意識を持つ子供がいる事はとても残念な事です。

先生方には、技術を教えていく事だけにこだわらず、アートにどんな力があるのかを今一度、子供たちと一緒に模索しながら、芸術の真骨頂ともいえる自然の美しさや強さや儂さを味方につけて、日野市ならではの芸術教育を作って頂きたいし、画家の端くれである私も、何かご協力していけたらうれしいです。

⑦学ぶ力プロジェクトの推進について

学校を超えた各分野の専門家や有識者の方々達が、日野市型の学ぶ力の実現のために、授業創造していくというすばらしいプロジェクトに、作家として、市民として大変興味があります。

テーマを多角的に掘り下げていく授業を作ること。

具体的に必要な学びの場作り。

線引きをしない無限に広がる学びは画一的な教育に萎えてしまっている可能性のある子供たちの資質や力を引き出す事ができるかもしれません。

子供たちの飽くなき興味学ぶ欲求を満たす事は彼らが生き方を見つけるための核になると私は考えます。

全25校が情報や内容を本当に共有し、生きた授業を作る事が出来たら日野市の教育の力強い土台になると思いました。

⑧被災地に学ぶ生きる力プロジェクトの推進について

2011年から2014年、私は文部科学省復興教育事業のコーディネーターを務めさせて頂いていました。

放射線の影響で土いじりなどができなくなった地域の小学校数校をモデルに実際に現地に滞在して、土いじりができない分 アートが少しでもその代わりとなり心を育めるか、と言う事をテーマに、プログラムを作り実践する委託事業でした。

その中で出会った子供たちの多くから、言葉では言い表せないくらいの「生きる力」を感じました。

東日本大震災は悲しい出来事です。

けれどその中で、福島のある小学校の校長先生が仰っていた言葉をよく思い出します。

「このピンチをチャンスとし、元の福島に戻すのではなく、新しい福島、ここだからこそできる新しい教育を作りたい」

今回の日野市教育委員会が主催された中学生達の被災地の訪問や生徒会サミットは、彼らにとって机上のお勉強よりも数倍も「学び」が得られる機会だったと確信しました。

また、防災に対する意識向上に、つながる意味のある事業だと思います。

このような学びの機会は子供たちにとって、人間と自然との共存についても考えるきっかけにもなります。

取り組むうちに、参加した子供たちは、「私たち人間はどこからきて どこへ帰るのか」という誰もが通る哲学のテーマに知らずとも触れる事になったことでしょう。今後も、このプロジェクトをぜひ続けてほしいと思います。

No.0-(1)	第3次日野市学校教育基本構想策定		
基本方針	世の中と結びつきながら“いのち”を感じ”いのち”を伝え合い 生きるよるこびあふれる明日へ みなに参加し ともに知恵を出し合い新たな創造へ 地域の中で感じ 考え 行動する 地域がステージの 学びへ	事業経費	646,120円
担当課	学校課		
事業の目的	現代は、技術革新やグローバル化の発達に伴い、社会の変化が急速に進んでいる。将来の予測が厳しい社会を子供たちが前向きに生きていくための学校教育基本構想を策定するため。		
事業の概要	2019年度～2023年度の5年間の学校教育基本構想の策定のために、委員長に横浜国立大学教育学部教授の梅澤秋久氏を招き、学識経験者、保護者、教員、地域、公募委員等22名からなる「学びと育ちの基本構想検討委員会」を立ち上げ、9回協議を行った。 協議の中では、教育哲学者の苦野一徳先生や、地域の方、子供たち、ほっとも、現任教員からそれぞれの現状や「未来に向かって子供たち自らがどんな力を育めばよいか」について、お話をいただき、それを基に対話による意見交換を行った。 また、未来に向けて地域の子供たちにどんな力を育むか話し合う中で、千代田区立麴町中学校長の工藤勇一校長からお話を伺い、これからの教育について考えを深めた。		
事業の成果・評価	子供たち自らが育んでいってほしい力「すべての“いのち”がよるこびあふれる未来をつくっていく力」を育んでいく環境を学校・家庭・地域・子供たちみんなで作っていくためのビジョンを定めることができた。 様々な立場の方と話し合いながら、学校教育基本構想ができたことで、みんなで進めて、みんなで責任をもつところの抛り所となる委員会となった。		
今後の課題	第3次学校教育基本構想をみんなで進めていくために、学校・地域・家庭・子供たちに周知していく。 子供が活動をしていく学校教育の中で、教員と子供たちがわくわくしながら進めていけるような場を設定し、第3次学校教育基本構想の内容から、子供たちの新たな学びを実践していくようすることが今後の課題である。		

No.0-(2)	特別活動の充実 -子供たちによる主体的で創造的な活動-		
基本方針	世の中と結びつきながら“いのち”を感じ”いのち”を伝え合い 生きるよるこびあふれる明日へ みなが参加し とともに知恵を出し合い新たな創造へ 地域の中で感じ 考え 行動する 地域がステージの 学びへ	事業経費	750,000円
担当課	学校課		
事業の目的	基本方針の実現のために、学校教育活動の中の特別活動に重点を置き、特別活動で身に付けた力を、他の教育活動にも生かせたという実践を残していくため。		
事業の概要	教育委員会の主要な取組として、特別活動の充実を掲げている。その根拠となるのは、基本方針の実現のためには、特別活動で身に付ける力が大切だからである。折り合いをつけながら、相手の気持ちに身を置いて意見を述べる力、集団で過程を大切にしながら物事を進める力の実践を広めるために、特別活動を校内研究としている東光寺小学校と平山小学校を研究奨励校とした。 2校は、校内研究を3年間行っていく。		
事業の成果・評価	それぞれの学校で、研究授業を行ったり、校内研修を重ねる中で教員自身が、子供たちに話合いで身に付いた力を他教科や他場面でも生かしたいと思うようになっている。特別活動の中だけでなく、子供たちが今身に付けた力が将来どのようなところで役立つか考えながら校内研究を進めることができた。 本校の実態から、どのような力を身に付けさせたいかを考えるようになったきっかけとなることができた。		
今後の課題	研究を進めながら、子供たちが活発に話合い活動ができたからよいとせず、本音を安心して語ることができる子供たちに育つよう環境を整えながら、校内研究を引き続き進めていく。		

No.0-(3)	個の状況にあわせた不登校児童・生徒への支援		
基本方針	世の中と結びつきながら“いのち”を感じ”いのち”を伝え合い 生きるよるこびあふれる明日へ みなが参加し ともに知恵を出し合い新たな創造へ 地域の中で感じ 考え 行動する 地域がステージの 学びへ	事業経費	294,000円
担当課	学校課		
事業の目的			
日野市に住む幼児・児童・生徒が自身の居場所を見付け、前に進めていけるようにするための不登校対策の充実を図る。			
事業の概要			
<p>◆適応状況調査により、各校の児童・生徒の不登校の状況と、一人一人に対する対応を明確にすることで、具体的な不登校対応の取組を推進する。</p> <p>◆不登校児童・生徒の家庭に対し、スクールソーシャルワーカー等をはじめとした関係機関による支援の充実を図る。</p> <p>◆教育委員会・学校・関係諸機関が情報を共有し、不登校児童・生徒及びその家庭が前に進めるようにするための連携を図る。</p> <p>◆家庭訪問を活用し、家庭と学校とがより密接に連携できるようにする。</p>			
事業の成果・評価			
<p>◆学校適応状況調査により、各校における不登校の状況について、共有するとともに、学校だけでは対応が難しい事案について、関係機関と連携した対応ができるようになってきている。</p> <p>◆学校、教育委員会、関係諸機関とで不登校児童・生徒の状況共有が進み、安否確認ができていた児童・生徒が増えた。</p>			
今後の課題			
不登校対策についても、より地域との連携を図っていくことで、本人・家庭への支援の充実へとつながる。			

No.0-(4)	“いのち”のプロジェクトの実施		
基本方針	世の中と結びつきながら“いのち”を感じ”いのち”を伝え合い 生きるよるこびあふれる明日へ みなが参加し ともに知恵を出し合い新たな創造へ 地域の中で感じ 考え 行動する 地域がステージの 学びへ	事業経費	100,000円
担当課	学校課		
事業の目的			
<p>子供と大人が“いのち”をテーマにした対話を通して、大人ができること、子供と大人が共にできることを考えることによって、よりよく生きる、よりよい地域社会をつくろうとする児童生徒の主体的で実践的な態度を育てるとともに、保護者の参画意識の向上を図る。</p>			
事業の概要			
<p>【組織、協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ “いのち”のプロジェクト・メンバーとして、日野市立小中学校PTA協議会5名、日野市教育委員会事務局4名、日野市立小中学校校長会4名で組織。 ◆ 平成30年度は、10回の協議会を実施。主な協議内容は、各学校の“いのち”の取組の状況報告、「“いのち”の『わ』～みんなで話そう～」の企画立案。 ◆ “いのち”のプロジェクト・メンバーは、通年で、各学校の“いのち”の取組を視察・参加。 <p>【「児童・生徒によるプレゼンテーション大会」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 平成31年1月12日（土）、ひの煉瓦ホール（市民会館）にて実施。 ◆ 小学校の部では、平成30年度の発表テーマを“いのち”に設定。 <p>○ 「“いのち”の『わ』～みんなで話そう～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 内容は、子供と大人が“いのち”をテーマにした対話を通して、大人ができること、子供と大人が共にできることを考えるワークショップ。 ◆ 平成29年度の参加者は、各中学校生徒会代表、各小中学校保護者代表、“いのち”のプロジェクト・メンバー。見学者を含め、約130名が参加。 ◆ 平成30年度は、平成31年2月9日（土）、日野市立三沢中学校にて実施。各小学校児童代表が加わり、見学者を含め、約130名が参加。各グループの話合いは、中学生が司会進行を務め、小学生による“いのち”の取組のプレゼンテーションから対話を始めた。 			
事業の成果・評価			
<ul style="list-style-type: none"> ◆ “いのち”のプロジェクト・メンバーで、各学校の“いのち”の取組状況を報告し合い、共有することで、“いのち”のプロジェクトの進捗を把握することができた。 ◆ 「児童・生徒によるプレゼンテーション大会」小学校の部の発表テーマを“いのち”に設定したこと、「“いのち”の『わ』～みんなで話そう～」で小学生がプレゼンテーションをする場を設けたことによって、各小学校の“いのち”の取組が発信され、交流することができた。 ◆ 「“いのち”の『わ』～みんなで話そう～」では、各小学校児童代表が加わったことによって、“いのち”について考える対話の輪を広げるとともに、各中学校区における児童生徒、保護者との関わりを深めることができた。 			
今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各小中学校の代表者による対話から、各中学校区、各小中学校内、各教室内へと、児童生徒、保護者、地域住民、関係機関担当者による対話の輪を広げ、関わりを深めることによって、“いのち”のプロジェクトの充実を図る。 ◆ 各小中学校における“いのち”の取組を充実することで、児童生徒一人一人の個性伸長を図り、自尊感情を育む。 			

No.0-(5)	部活動プロジェクト		
基本方針	かかわりの中で知恵を出し合い、自立・協働・創造に向けた「21世紀を切りひらく力」を豊かに育みます	事業経費	1,967,600円
担当課	学校課		
事業の目的	<p>◆希望する全ての子供たちが部活動に親しみ、ともに高めあい、人生の基盤となる貴重な体験を積み重ねる日野市型部活動を構築する。</p> <p>◆このことを実現するために、新たな指導のあり方を構築する。</p>		
事業の概要	<p>部活動プロジェクトとして委員会を開催し、部活動の運営や休業日・活動時間等の設定等について検討した。</p> <p>◆スポーツ庁と文化庁が示す「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」「文化部活動に関する総合的なガイドライン」に基づき、生徒にとって望ましい部活動の実施環境を構築するという観点に立ち、部活動の運営の在り方を検討した。</p> <p>◆部活動の実情について、中学校部活動の顧問教員から話を聞き、現状を把握した。</p> <p>◆「日野市における部活動に関する方針」策定に向けた検討を重ねた。</p>		
事業の成果・評価	<p>平成31年3月に「日野市における部活動に関する方針」を策定した。</p> <p>◆生徒と指導者の対話により、自らの部活動がめざすものを構築、共有し、保護者とも共有していく。</p> <p>◆学期中は、週当たり2日以上休養日を設ける</p> <p>◆1日の活動時間は、原則として、学期中の平日では2時間以内、週休日（祝日等を含む）及び長期休業中は3時間以内とし、できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う</p> <p>◆「日野市における部活動に関する方針」を踏まえた、毎年度「学校の部活動にかかわる方針」を策定し、生徒・保護者と共有していく</p>		
今後の課題	<p>◆各学校における「学校の部活動にかかわる方針」を踏まえた実践を指導・支援していく必要がある。</p> <p>◆生徒・保護者とともによりよい部活動の運営体制を構築していく必要がある。</p>		

No.0-(6)	学校における働き方改革		
基本方針	世の中と結びつきながら“いのち”を感じ”いのち”を伝え合い 生きるよるこびあふれる明日へ みなが参加し ともに知恵を出し合い新たな創造へ 地域の中で感じ 考え 行動する 地域がステージの 学びへ	事業経費	43,075,300円
担当課	学校課		
事業の目的	<p>教員一人一人の心身の健康保持の実現と、誇りとやりがいをもって職務に従事できる環境を整備することにより、学校教育の質の維持向上を図る。</p>		
事業の概要	<p>◆「学校における働き方改革推進プラン」の策定 教員の長時間労働について、市内全小・中学校の現状を分析し、「学校の教職員」、「教育委員会職員」、「市長部局職員」で構成する「働き方改革検討委員会」を立ち上げ、この中で日野市の特性（校務支援システムの活用、ICTを活用した教育の推進等）を考慮し、プランを策定する。</p> <p>◆「小・中学校教員のタイムマネジメント力向上」支援の実施 改革プランを効果的に推進するため、より具体的な取組みの提案、実施、検証を行う。</p> <p>◆「出退勤管理システム」の導入 教員の在校時間を適切に把握し可視化することで、働き方に対する意識改革、取組みの効果・検証を行うため、出退勤システムを導入する。</p> <p>◆「スクール・サポート・スタッフ」、「副校長補佐」の配置</p> <p>◆「部活動推進統括コーディネーター」による、部活動を支援する人材の発掘、調整を行う仕組みづくりの検討。</p> <p>◆「部活動指導員」の配置</p>		
事業の成果・評価	<p>◆平成31年3月に「日野市立小・中学校における働き方改革推進プラン」を策定し、「プラン策定の目的」、「目標値」、「取組みの方向性」、「具体的な改善策」等を示した。</p> <p>◆「小・中学校教員のタイムマネジメント力向上」の支援については、平山小学校、三沢中学校をパイロット校とし、教職員と共に、タイムマネジメントに関する研修、より具体的な取組みの検討を行い、これをプランの策定にも反映した。</p> <p>◆全小中学校に出退勤管理システムを導入し、出勤時間、退勤時間を記録し、自らの勤務時間（在校時間）の可視化ができる仕組みを構築した。</p> <p>◆「スクール・サポート・スタッフ」を小学校15校、中学校4校に配置、「副校長補佐」を小学校1校、中学校1校に配置し、教員本来の業務に専念できる環境を整えた。</p> <p>◆「部活動推進統括コーディネーター」事業のなかで、各学校の部活動の実態、部活動指導員のニーズ等について「アンケート」及び「ヒアリング」を実施し、一部の部活動に対し「部活動指導員」（15名）の配置を行った。</p>		
今後の課題	<p>「学校における働き方改革」の推進のため、教員はもとより、学校・家庭・地域を含めた意識改革および、連携強化を図っていく必要がある。合わせて、教員定数の充実、サポート人員の配置など抜本的な制度改正等には関する対策は、国や都へ要望および働きかけを行っていく。</p> <p>「出退勤管理システム」を活用し、勤務時間の可視化が教員のメンタルヘルス対策等につながる仕組みを構築するとともに、「働き方改革推進プラン」の効果・検証をしっかりと行っていく。</p>		

No.1-(1)	学ぶカプロジェクトの推進		
基本方針	かかわりの中で知恵を出し合い、自立・協働・創造に向けた「21世紀を切りひらく力」を豊かに育みます	事業経費	332,883円
担当課	学校課		
事業の目的			
<p>第2次学校日野市学校教育基本構想を踏まえ、日野市で進めてきた重点施策を基盤とした「21世紀を切り開く力」を身に付けさせるための授業について専門家とともに開発し、全25校の授業創造に結び付ける。</p>			
事業の概要			
<p>21世紀を切りひらく力の具現化を図るため、ユニバーサルデザインの授業、ICTを活用した授業を基盤として、「全員が参加し、ともに知恵を出し合い、あらたな創造へ」と向かう日野市型の学ぶ力を実現するための授業開発を行い、実践に結び付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学識経験者と各校 代表による年5回程度の推進委員会を開催する。 ◆成果をまとめ報告会を開催する。 <div data-bbox="1005 716 1404 1008" style="text-align: center;"> <p>学ぶ力を育て子供の自律的な問題解決を支援したい！</p> </div>			
事業の成果・評価			
<p>帝京大学大学院教授の中田正弘氏を年間講師とし、委員会を年間5回開催し、2月に報告会を開催した。全小・中学校25校の代表者と専門家が集まり熟議を行い、これまでの研究での学びのサイクルをもとに、各グループが進めてきた研究テーマは以下のとおりである。</p> <p>日野第一中学校区→学びのつながりを意識した小中連携 大坂上中学校区→子供の実態を踏まえた望ましい校内研究 日野第四中学校区→健康教育について 三沢中学校区→“いのち”を考え、感じる教育活動の実践 日野第二中学校区→『学びをつかみ取る力』を育てる 七生中学校区→校内の『学ぶ力』における研究協議の工夫 日野第三中学校区→共生社会の実現 平山中学校区→学びのサイクルを自ら回せる子供を育てる</p> <p>子供たちが主体的に学びをつかみとる力、9年間を通した学びについて8グループに分かれ研究したことを共有することができた。地域に根差した教育を教員が意識しながら地域をステージにした学びの実践を生み出すことができた。</p>			
今後の課題			
<p>学ぶ力向上推進委員会で、実践できたことを今後も各校で『目指す授業像』をイメージしながら深めていくこと。今後も、校内にとどまらず、中学校区で研究内容を共有しながら9年間を通しての学びを大切にしていくこと。</p>			

No.1-(2)	被災地に学ぶ生きる力プロジェクトの推進		
基本方針	かかわりの中で知恵を出し合い、自立・協働・創造に向けた「21世紀を切りひらく力」を豊かに育みます	事業経費	1,075,979円
担当課	学校課		
事業の目的			
<p>東日本大震災の被災地を中学生が訪問し、現地の中学生と交流し、震災で得た生き方・人としての在り方、地域の復興のために何をすべきかなどを考えることにより「生きる力」を育む。さらに各校の中学生と「生きる力」を共有し、生徒自身の生き方、在り方を見つめ、発展させるとともに、ここで得た経験を基に、避難所における中学生の役割について自ら考え行動することに結び付ける。</p>			
事業の概要			
<p>◆日野市教育委員会が主催する。 ◆今年度は、目的に準じながら気仙沼中学校の生徒を日野市に呼びたいという中学生の提案を実現させるため、これまでの経過も加味し、日野市で交流を行うこととした。8月8日から10日の2泊3日で行った。8月9日は、新町交流センターで地域の方にも本活動を紹介し、未来に向けて自分たちがやるべきことについてパネルディスカッションを行った。</p>			
事業の成果・評価			
<p>◆「被災地に学ぶ生きる力プロジェクト」実施にあたり、事前学習会では各校から選出された代表生徒がグループワーク等を通して交流を深めるとともに、気仙沼中学校との交流に備えて①東京都や日野市の紹介②日野市の中学校の特色ある生徒会活動の2点について発表するプレゼンテーションを作成した。 ◆8月9日の気仙沼中学校生徒会との交流会では「それぞれの郷土の未来について、自分たちにできることは何か。（地域・学校・生徒会活動から）」をテーマに交流を行った。午後は含めたパネルディスカッションでは、被災地の語り部の尾形幹男さんの講演により、改めて東日本大震災の様子を共有した。その後、『伝えよう未来へ創ろう未来を！～私たちが未来へ向けてやるべきことは何か～』をテーマに地域の方々と交えてパネルディスカッションを行った。気仙沼市からは、復興の中で未来にむけて着々と開発されており、津波死ゼロの町を目指して、水産と観光の融合の町にしたいということ、日野市からは、日野のよさを伝え、広めることが必要と考え、未来は、世代を超えて人とつながる町にしたいという意見が出た。そこで、自分たちが今地域でできることは何かを考えました。地域に関わる絵本を書いて広める、オリジナルのハザードマップを作成して、これから災害が起きてもみんなが助かるようにする、お年寄りと交流しながら手伝いをする、など、多くの意見が出て実り多き時間となりました。地域の方々から『中学生の考えを聞くことにより、大人が動かないといけないと前向きな気持ちになれた』、『未来をつくることを真剣に考えている、頑張れ!』というようなメッセージを付箋にていただいた。 ◆プロジェクトの内容については、各校において校内報告会を開催した。市全体の報告会の準備のために事後学習会を行い、平成31年1月の「児童・生徒によるプレゼンテーション大会」にて、気仙沼市の現状、気仙沼中学校との交流の様子を報告し、これから中学生としてどのような未来を目指していくのかについて発表した。</p>			
今後の課題			
<p>◆被災地の復興が進むにつれて、現地で見えて感じることで、ボランティア活動の内容が変化していく中で、次年度から『未来に向けた創造力プロジェクト』として内容を検討していく。これまでの取組をもとに、引き続き交流を続け、被災地に学ぶことから、一緒に未来について考え、それぞれ地域に発信していくことを目的とする。 ◆宮城県気仙沼市、熊本県美里町をはじめとしたこの事業でつながりのできた自治体との「つながりによる生徒会サミット」（仮）の実施にむけて、予算化に含め調整する。</p>			

No.1-(3)	英語教育の推進		
基本方針	かかわりの中で知恵を出し合い、自立・協働・創造に向けた「21世紀を切りひらく力」を豊かに育みます	事業経費	19,101,500円
担当課	学校課		
事業の目的	グローバルな視野をもったつながりによる教育を推進するため、国際コミュニケーションスキルの育成を目指す。		
事業の概要	<p>◆新学習指導要領先行実施による小学校第3・4学年は年間35時間、第5・6学年は年間70時間の外国語活動の指導の充実に向け、英語教育推進委員会で授業実践・協議を行い、小学校外国語活動・中学校外国語科のさらなる充実を図る。</p> <p>◆英語を用いて世界に発信できるひのつ子を育てるために、ALTの配置時間数を増加させる。</p> <p>◆日野市教育委員会の教育目標の一つである「ひらこう世界へ」を基調とし、日野市の中学生に、英語によるコミュニケーション能力の育成と異文化体験学習をとおして、国際感覚を養うとともに、「自ら考える」、「自ら行動する」、「責任もって生きる」生徒として、世界を舞台にした可能性への挑戦やリーダーシップを育てる。</p>		
事業の成果・評価	<p>【英語教育推進委員会】 委員による協議、定例会での授業研究を通して指導方法の工夫改善を図るとともに、小学校外国語活動の年間指導計画について検討した。日野市内の都立高校（日野台高校、南平高校、日野高校）英語教員を交えた授業研究・協議の機会を設け、高校卒業時までを見通した連続性ある英語教育の実現に向け、校種を超えた意見交換を行った。</p> <p>【ALT配置】 小学校3・4年を10時間、5・6年を20時間、中学校25時間配当</p> <p>【中学生国内留学体験事業】 「地元の子供たちに世界で活躍するためのきっかけを作る」という思いで始まった「中学生国内留学体験事業」も第14回目を迎えた。東京日野ロータリークラブの奨学制度を受け、平成30年12月26日（火）～28日（木）の3日間、ブリティッシュ・ヒルズ（疑似体験型国際研修センター）に参加した生徒は、3日間の充実した体験活動により、さらに豊かな国際感覚を身に付けた。報告会では、学んできた内容を七生公会堂で一人一人が英語のスピーチで発表するとともに、英語による報告書を作成した。</p>		
今後の課題	<p>◆小学校外国語活動におけるALTの効果的な配置と活用について研究を進める。</p> <p>◆中央大学国際交流センター等との連携を深め、各国からの留学生と市内小・中学生との交流や英語を使つてのコミュニケーションの機会を増やす。</p> <p>◆オリンピック・パラリンピックの機会を契機とした、海外の方との英語を活用したコミュニケーションを増やす。</p>		

No.1-(4)	道徳教育の充実		
基本方針	かかわりの中で知恵を出し合い、自立・協働・創造に向けた「21世紀を切りひらく力」を豊かに育みます	事業経費	200,000円
担当課	学校課		
事業の目的	<p>自分の大切さと他の人の大切を認め行動できる豊かな人間性を育成するため、人権教育の一層の充実を図る。また、道徳的な心情・判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うために、学校・地域社会が連携し、教育活動全体を通じて道徳教育を推進する。</p>		
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆いじめ防止基本方針に基づく体制整備等取組の充実（協議会-年1回、対策委員会-学期毎） ◆人権教育（互いに尊重し合う態度や他者と共に生きる力の育成）の推進 ◆三沢中学校が、東京都道徳教育推進拠点校として教科化についての研究を進める。 ◆道徳授業地区公開講座の充実 		
事業の成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> ◆東京都道徳教育推進拠点校として、三沢中学校が平成31年1月23日に公開授業を実施した。 ◆道徳授業地区公開講座を全小・中学校で実施し、児童・生徒、保護者・地域の共通理解による心の教育の充実を図った。 		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆教員の授業実践の充実を図る。 ◆小学校・中学校における道徳科の評価の取組の充実を図る。 		

No.1-(5)	体を動かす楽しさ・心地よさ向上プロジェクトおよびオリンピック・パラリンピック教育の推進		
基本方針	かかわりの中で知恵を出し合い、自立・協働・創造に向けた「21世紀を切りひらく力」を豊かに育みます	事業経費	939,452円
担当課	学校課		
事業の目的			
<p>現在日野市では、児童・生徒の運動に関して「運動しない児童・生徒が少なからずおり、運動する子としない子の二極化の状況があること」、そして「運動嫌いな子が減らないこと」という課題がある。そこで、児童・生徒の体力向上を達成するために「体を動かす楽しさ・心地よさ向上プロジェクト」に取り組み、児童・生徒が生涯にわたって、自身の能力や環境に合わせて運動を楽しんでいける能力「身体的リテラシー」を獲得できるようにするための取組を推進する。</p>			
事業の概要			
<p>運動嫌いな子「運動をしない子が運動をするようになり、主体的に運動する中で運動量を増やすことで、結果として体力が向上していく」という過程で、「一人一人の運動能力や環境に合わせ、生涯にわたって運動を楽しむ力、『身体的リテラシー』」を育成し、生涯スポーツの基盤をつくるため、横浜国立大学教授の梅澤秋久氏の指導を受け、取組を進める。</p> <p>年間3回の研修を行い、授業研究・各校の実践共有・講師による指導を通して、各校の教育活動の中で、児童・生徒が体を動かす楽しさや心地よさを実感できるための指導方法の工夫について理解を深めた。また、平山小学校と第二幼稚園とで異校種交流を行う中で児童・幼児が体を動かす楽しさ・心地よさを感じる機会をもつための先行研究を行った。</p>			
事業の成果・評価			
<p>◆休み時間に体を動かす機会を設け児童・生徒が外に出て遊ぶ時間を設定したり、多様な運動遊びや運動器具を準備し児童・生徒が興味をもって運動に親しめる機会を提供したことが、身体的リテラシーの育成につながった。</p> <p>◆仲間と協力したりよいところをほめたり互いに教え合うことで、児童が安心して運動に取り組めるようになった。</p> <p>◆運動の得意、不得意に関わらず、運動することを楽しむことができるようなルールの工夫をすることで、児童が意欲的に運動に取り組む環境づくりをした。</p> <p>◆ボール運動の際、やわらかいボールを使う等道具を工夫することで、児童・生徒が運動を楽しむ基盤を構築することができた。</p> <p>◆運動する際のルールを工夫したりグループでの活動を活用することで、児童・生徒が自身の役割を自覚し主体的に運動に取り組むことができるようになった。</p> <p>◆平山小学校と第二幼稚園との研究の成果として、互恵性ある幼稚園・小学校交流の在り方が明らかになるとともに、全校・園の中で共有することができた。</p>			
今後の課題			
<p>◆市立幼稚園と小学校との交流をさらに広げていく必要がある。</p> <p>◆子供たちに体を動かす楽しさ・心地よさを味わわせる中で、体力を高めるための具体的な働き掛けを加えていくことで、更なる効果を期待できる。</p>			

No.1-(6)	がん教育の推進		
基本方針	かかわりの中で知恵を出し合い、自立・協働・創造に向けた「21世紀を切りひらく力」を豊かに育みます	事業経費	0円
担当課	学校課		
事業の目的	児童・生徒に対し、がんについての理解及びがん（生活習慣病）予防のための教育を推進する。		
事業の概要	<p>◆がんに関する教育の一層の充実を図るため、教材セットの開発・各校への配布を行う。</p> <p>◆日野市がん対策推進基本条例に基づき、市立病院医師の出前授業などを継続して推進し、併せて教職員のがん教育に対する意識の啓発を行い、がんに関する教育の一層の充実を図る。</p>		
事業の成果・評価	<p>◆市立病院医師並びに中学校代表教員による「がん教育教材作成委員会」が中心となって中学校で使用する教材を開発し、市内全中学校に配布した。</p> <p>◆市内小・中学校において、市立病院医師による児童・生徒向けの出前授業を実施した。</p> <p>◆各校から教員が参加し、がん教育に関する研修を行った。</p>		
今後の課題	<p>◆小学生対象のがん教育の教材開発を進める。</p> <p>◆市立病院医師による出前授業の継続的な実施のための調整等の工夫が必要である。また、出前授業の際に保護者・地域の方が参加できるよう工夫し、保護者・地域への啓発も図る。</p>		

No.1-(7)	食育の充実		
基本方針	かかわりの中で知恵を出し合い、自立・協働・創造に向けた「21世紀を切りひらく力」を豊かに育みます	事業経費	96,000円
担当課	学校課		
事業の目的	<p>子供たちが心と身体を培い、生涯にわたって生き生きと暮らすことができるようにするためには、健全な食生活を実践することができる人間を育てることが重要であり、学校教育を通して食育を推進することが求められている。食育基本法や日野市食育推進計画に基づき、学校給食における食育の一環として中学校においてテーブルマナー教室を実施するほか、各学校の食育リーダーが中心になって、食に関する指導の全体計画のもと特色ある食育事業を展開する。</p>		
事業の概要	<p>「食に関する指導の全体計画」のもと、食生活学習教材などを活用してバランスのとれた食事の仕方などを学ぶ。農家の方の協力をいただき、農業体験や食材について学習する。全中学校において、中学3年生を対象としたテーブルマナー教室を実施し、食を楽しみながら食事の作法・マナーを学ぶ機会とする。食育研修を開催し、各学校の食育教育の充実と推進を図る。</p>		
事業の成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> ◆本物工房ひのマニュアルの柱となる手作りのだし汁について、子供たちに周知させるとともに、保護者へのアピールもかねて、11月に「だしで味わう和食の日」を実施した。 ◆毎月19日の食育の日をはじめ、11月19日の日野産野菜給食の日など、全校一斉に食育の取り組み日を設定し日野市食育推進計画に基づいた指導を行った。 ◆日野第一小学校が、全国学校給食甲子園に出場し、優秀賞「特に味のバランスに優れていた」を受賞した。優秀賞をとった献立を日野市全校の学校給食で実施した。また、給食を支援していただいている農家や地域の方へのお披露目会、市民向けお披露目会を開催した。 ◆テーブルマナー教室は、今年度も中学校全校で実施し、実践女子大学の協力をいただいた。講義と実践により、これから社会に巣立つ中学校3年生にとって基本的な食事のマナーを学ぶ機会となった。 ◆児童・生徒が農家と顔のみえる食育活動を行い、栄養士・調理員が農家と連絡を密にとることにより、日野産野菜25%を達成することができた。 ◆各学校で、日本各地の郷土料理を給食に取り入れ、1月30日に岩手県紫波町との姉妹都市締結日に紫波町の米を使用して岩手県や東北の郷土料理等を給食で提供した。 		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆各学校において特色ある食育活動が実施されているなか、給食を生きた教材として活用し、自分の身体に必要な食事の摂り方を勉強する。 ◆保護者に食に関する興味や関心を持ってもらえるような情報発信を行い、保護者への食育につながる取り組みを行う。 ◆学校給食を地域にも発信し、地域への食育に繋がる取り組みを行う。 		

No.2-(1)	スクールソーシャルワーカー(SSW)		
基本方針	質の高い教育環境を整え、「次代をつくる特色ある学校づくり」に取り組みます	事業経費	14,100,000円
担当課	教育支援課		
事業の目的	問題を抱えた児童生徒に対し、当該児童生徒の置かれた環境への働きかけ、関係機関とのネットワークの利用など、多様な支援方法を用いて問題解決への対応を図っていくことにより、子どもの自尊感情に働きかけ、自立を目指していく。		
事業の概要	問題を抱えた児童生徒に対し、社会福祉等の専門的知識の技術を有する社旗福祉等の専門職が働きかけをおこなっていく。 ①児童生徒が置かれた環境整備 ②関係機関との連携・調整 ③学校内における支援の構築 ④保護者、教員への支援・相談		
事業の成果・評価	<p>実績 派遣依頼実児童生徒数 62人 /年 小学校 22人 中学校 40人</p> <p>◆学校やわかば学級にも行けない児童生徒の交流の場として、年に2回 エール内で交流の場（ひよっこり）を実施した。 1回目（12月） 6名参加 2回目（3月） 5名参加</p> <p>◆学校に通えない児童生徒の家庭を訪問し、家庭で会うことから、公園、エールと児童生徒の活動の場を広げ、保健室登校等に つなげられたケースがある。</p> <p>◆生活困窮などを把握し、福祉的な支援につなげられたケースがある。</p>		
今後の課題	<p>2019年度からは、学校担当制に変更し、学校配置日を作ることにより、さらに学校との連携を強化していく予定である。</p> <p>SSWが学校現場での問題を早期に発見、対応し、虐待等の問題は早期に子ども家庭支援センターにつなげていける仕組みづくりをしていく予定である。</p> <p>問題行動を抱える児童生徒の増加により、SSWの必要性は増加しているため、中学校区1名の配置（4名から8名体制）を進めていきたい。</p>		

No.2-(2)	第4次日野市特別支援教育推進計画の推進		
基本方針	質の高い教育環境を整え、「次代をつくる特色ある学校づくり」に取り組みます	事業経費	68,282,000円
担当課	教育支援課		
事業の目的	平成29年度から平成31年度を計画期間とした第4次日野市特別支援教育推進計画に基づき、今後の日野市における特別支援教育をさらに推進するため、重点施策に取り組み、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図る。		
事業の概要	<p>◆「かしのきシート」による切れ目のない支援については、「かしのきシート」電子システムを、エールと公・私幼稚園等の関係機関がつながることにより、支援情報を共有するとともに、中・高連携した引継ぎの充実を図り、切れ目のない支援につなげていく。</p> <p>◆発達障害等により学習に困難がある生徒に、状況に応じた学習支援を行うため、市内小中学校全校にリソースルームを設置し、指導を行う。</p> <p>◆軽度の発達障害等がある生徒に、通常の学級に在籍しながら在籍校で巡回指導員が指導を行う特別支援教室（ステップ教室）を市内小中学校全校に設置し、指導を行う。</p> <p>◆全ての子どもが参加し、わかる授業を目指した「ひのスタンダード」の研究については、小・中学校21校の通常級において、ユニバーサルデザインの視点での研究事業を実施するとともに、「教科つまづき解消プロジェクト」と名づけ、市内小中学校の全教員から教科で特定の困難を示す児童への対応を【困難の状況】【配慮の意図】【手立て】の項目で事例の収集を行う。</p>		
事業の成果・評価	<p>◆エール、保育園、幼稚園、小・中学校、高等学校等での支援内容の記録として、各機関が作成した個別の支援計画の電子記録をエールが管理し、次の機関に適切に引き継いでいく「かしのきシート」システムを活用している。個別の支援計画を系統的、継続的に保存することが、切れ目のない支援のための基盤となっている。</p> <p>◆市内全小中学校リソースルームにおいて、個に応じた学習の補充指導により、生徒の自信の取り戻しや保護者の理解の深まり等につながっている。</p> <p>◆市内小中学校に特別支援教室を設置し、日野市における特別支援教室の運営マニュアル、中学校における特別支援教室の導入ガイドラインに基づき、実践を積み重ね、指導の充実を図った。</p> <p>◆特定の困難を示す児童への対応を【困難の状況】【配慮の意図】【手立て】の項目で事例の収集を行い、その成果を全教員で共有するため、事例集を作成し、全小中学校に配布した。また2019年度においては、「市内つまづき解消プロジェクト」を通して見えてきた個々の教員による内容の格差を解消するため、文部科学省による「発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業」の委託事業の中で、教員が児童・生徒一人ひとりのつまづきに対し、自分たち自身で手立てを生み出すことができるよう、教師の指導力向上を図っていく。</p>		
今後の課題	<p>◆かしのきシートの利用者増加に向けて、シートの内容を充実するとともに、目的、システム入力方法やシートの利用方法の一層の周知、理解を図り、支援につながる有効な活用に向けて推進することが必要となっている。</p> <p>◆リソースルーム、特別支援教室設置により、個に応じた支援の一層の推進を図るため、指導力の向上が求められる。</p> <p>◆継続的に研究と実践を積み重ね、日野スタンダードの推進、授業力の向上を図るべく、事業を行うために、引き続き文部科学省等の方針を注視し、委託事業等を最大限に活用するとともに、全教員への周知と理解、活用を、研修等の機会を通じて一層図っていく必要がある。</p>		

No.2-(3)	ICT活用教育の推進・充実		
基本方針	質の高い教育環境を整え、「次代をつくる特色ある学校づくり」に取り組みます	事業経費	111,165,000 円
担当課	学校課・ICT活用教育推進室		
事業の目的	<p>①ICT活用教育を組織的に推進する。</p> <p>②教育委員会は、学校のICT活用教育充実のための支援を行う。</p>		
事業の概要	<p>①ICT環境の整備（機器、ソフト、ネットワーク環境等）</p> <p>②教員のICT活用、児童・生徒の学習に対する支援</p> <p>③メディアコーディネーターによる、きめ細かな支援</p> <p>④校務でのICT活用に対する支援</p> <p>⑤セキュリティ対策の強化</p>		
事業の成果・評価	<p>①平成30年度は、一小、豊田小、平山小、滝合小のパソコン教室について、タブレットパソコン、周辺機器等の更新をした。</p> <p>②「一斉学習」では、大型モニターとデジタル教科書や、実物投影機を活用したことで、児童・生徒の視覚に訴えることができ、興味・関心を引き出した。また、無線LANの整備により、タブレットパソコンを校庭等へ持ち出して授業等で使用するなど、活用の幅を広げることができた。「個別学習」では、パソコン教室の一人一台のタブレットパソコンを活用し、個別学習ソフトを使ったり、インターネットを利用した調べ学習等を行うことができた。</p> <p>③メディアコーディネーター2名がICT活用教育支援室に常駐し、個々の学校、教員の状況に応じて、延べ358回の支援を行った。（平成29年度比：107回の増）加えて、ICT活用ニュースを述べ48回発行し、各学校における実践事例をしない全校に発信した。（平成29年度比：2回増）また、夏休みを利用した夏季ICT研修を実施し、集中的にICT活用についての指導を行った。15講座（平成29年度比：3講座増）。加えて、各学校ごとに「メディアコーディネーター週間」を設定し、その間は特定の学校に集中的に支援を行った。</p> <p>④新しい校務支援システム（c4th：統合型）を導入した。訪問サポートも含めたヘルプデスクの対応により、学校現場からの操作に対する質問等へ、より明確に、より短時間で答えることができた。加えて、かしの木シートとc4thとの連結に向けての準備をすることができた。</p> <p>⑤学校のネットワーク環境において、学校Webメールに対するメール無害化システムを導入し、セキュリティ対策を強化した。</p>		
今後の課題	<p>日野市未来に向けた学びと育ちの基本構想に基づき、「一律一斉の学びから自分に合った多様な学びと学び方へ」「自分たちで考え語り合いながら生み出す学び合いと活動へ」の実現に向け、ICT環境を整備していくことになる。</p> <p>①機器の更新に対する検討</p> <p>②PCの台数増についての検討</p> <p>③授業・学習での更なるICT活用への支援（メディアコーディネーターの学校に寄り添った支援）</p> <p>④夏季ICT研修の充実（内容の充実、教員が参加しやすいような設定）</p> <p>⑤ICTニュースにより、授業での実践事例について、積極的に紹介</p> <p>⑥c4thの活用による校務の改善</p>		

No.2-(4)	学校施設環境の整備		
基本方針	質の高い教育環境を整え、「次代をつくる特色ある学校づくり」に取り組みます	事業経費	243,716,819円
担当課	庶務課		
事業の目的	校舎の新築・増改築、トイレなどの改修を、計画的に実施することにより、質の高い学校施設環境を整え、児童・生徒に安全・安心な教育環境の整備・充実を図る。		
事業の概要	<p>◆豊田小学校増改築および既存校舎等の大規模改造工事の実施に向け、設計方針・基本事項を定める。</p> <p>◆老朽化した小中学校のトイレを、ドライ方式（床仕上）、配管の取替、男子便器（人感センサー式）、洋式便器（節水型）、照明（人感センサー式）など、衛生的で省エネ（節水・節電）に配慮したトイレへ改修する。</p> <p>◆老朽化したプールにて、プール槽の全面シート覆い、プールサイドの遮熱塗装などを施す。また漏水等の問題がある場合は、あわせてその解消を図る。</p>		
事業の成果・評価	<p>◆豊田小学校増改築および大規模改造工事に向け、増築棟の基本プラン（教室・給食室・学童クラブ）、仮設計画（工事動線含む）、既存校舎の職員室の拡張、それに伴う配置換え、旧給食室の用途替え及び改修項目などを整理することができた。</p> <p>◆トイレ改修を日野第六小学校と日野第二中学校の2校で実施。六小では3系統、二中では1系統および体育館兼開放用トイレにて、配管の更新、床のドライ化、大便器の洋式化、LEDの導入など全面改修することで、衛生的で安全に安心して児童・生徒が利用しやすい環境を整備することができた。</p> <p>◆プール改修を豊田小学校と旭が丘小学校の2校で実施。鉄製のプール槽が経年により、錆や塗装の浮きが顕著となったため、プール全面をシートで覆い、また真夏の日射により焼けるような熱さとなるプールサイドを遮熱効果のある塗装を行うことができた。これにより怪我等の心配のない安全で安心して利用できる環境を整備することができた。さらに豊田小では配管を更新することで、漏水の解消も図れた。</p>		
今後の課題	<p>◆豊田小学校の児童増に伴う教室不足という事態を招かないよう適正な時期までに増築校舎を完成させなければならない。また工事が長期間（おおよそ5年間）に及ぶため、児童や学校職員の負担を少しでも軽減できるように教育委員会全体で様々なケアが必要である。さらに工事の範囲が年毎に異なることから、児童の動線が複数回にかけて変更せざるをえなく安全面の十分な配慮が必要である。</p> <p>◆平成30年度のトイレ工事をもっておおよそ70%の系統で改修を終えることができたが、未改修系統をもつ学校では早急な改修を切望する声さらには高まっている。施設のにも老朽化がさらに進み「臭い・汚い・暗い・漏水」などの問題も拡大している。諸問題の抜本的な解消にはこれまでどおり全面改修が必要ではあるが、トイレの全面改修には多大な事業費がかかることから、今いる児童・生徒の利用環境の少なからず改善を図るため、簡易な改修や清掃など運用面も含めた方策もあわせて検討が必要である。</p> <p>◆プール施設は、これまで校舎の耐震化など優先すべき事業が続いてきた経緯から、多くの学校で手が付けられず劣化が進行している状況である。校舎の大規模な改修にあわせて改善を実施することを前提として計画しているが、プール槽の劣化の進行度合いなどを踏まえ、単独での改修も併行して検討せざるを得ない。</p>		

No.3-(1)	郷土教育の推進		
基本方針	人が豊かに生きるために体験を充実させ、学校、家庭、地域・社会が一体となった「つながりによる教育」を推進します	事業経費	3,118,596円
担当課	教育センター・郷土資料館		
事業の目的	<p>第3次学校教育基本構想の「地域でさまざまなことを感じ、学びあい、活動へと結びつけていく」「地域を自分で感じ、自分を育て、自分の生き方をつかみ取っていく」ために、学校における郷土教育の在り方を研究することを目的として郷土教育推進研究を行う。</p> <p>さらに、学びと育ちの日野ビジョン（日野市総合教育大綱）の「3. 郷土（ふるさと）を愛する日野人として成長し、地域を創り上げるつながりをつくります」のうち、「◇郷土愛をもった子どもたちが成長し、新たな地域を創り上げていく 日野人としての成長を支えます」に基づいて郷土教材の発掘や教材化の推進及び授業の充実を目的に郷土教育推進研究事業を行う。</p>		
事業の概要	<p>◎七生地区にスポットを当てた研究を推進し、同地区を中心とする地域素材の教材化と授業づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童向け冊子「歩こう 調べよう ふるさと七生」の作成 <ul style="list-style-type: none"> ◆取材、原稿作成、原稿検討…1学期 ◆原稿の仕上げ、校正…2学期 ◆冊子完成・配布…平成31年3月 印刷部数8,000冊…小学校3年生以上の活用を想定、春休みに配布 紙媒体のみならず、冊子をPDF化し市HPに掲載 2. 冊子を活用した授業づくりの研究 <ul style="list-style-type: none"> ◆冊子を手にした児童の反応を予測、児童自らが課題をもち追及する授業を工夫（9月から12月） 3. 七生地区フィールドワーク研修 ～七生地区を実際に歩くことを通して歴史に触れるとともに、史跡や歴史遺産の教材化の手法を学ぶ～ <ul style="list-style-type: none"> ◆実施日…平成30年7月25日（水）9：00～16：30 ◆日 程…（午前）フィールドワーク：高幡不動尊屋→旧道→南平八坂神社→南平小 （午後）南平小で室内研修：事例発表、講義、演習 4. その他 日野市教育委員会夏季教員研修課題別研究会と共催 		
事業の成果・評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童の興味・関心 写真や図を多用し、文字は必要最小限に止めてビジュアル化を図り、児童の興味・関心を誘った 2. 場所や歴史に誘う”ガイドブック” 七生地域の古代から現代までの「人・こと・物」を題材に取り上げ、「見てみたい」「行って調べてみたい」と思わせるような冊子となった 3. 楽しく学習できる工夫 キャラクターを見開きごとに配し、関連事項がある他のページへと案内したり、豆知識を紹介（ナナのすけ、マメびよん） 4. 冊子の作成と郷土教育研究 小学校で実践できる郷土学習の豊かさを実感。 子どもたちが日野の様々な場所を訪れ、日野の良さを再発見し、人々との触れ合いを通して成長し、日野への愛着を高めるとともに郷土のより良い未来を描き築こうとする力を育む契機となった。 		
今後の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 冊子の利活用 <ul style="list-style-type: none"> ◆総合的な学習での活用・教科単元への体系的組み込み 4年の用水、5年の流通、6年の歴史の学習など 2. 一般市民への普及と昇華 <ul style="list-style-type: none"> ◆あらゆる事業で活用し、市民に利用していただける「七生冊子」へと昇華 3. 有償刊行物化 		

No.3-(2)	学校支援ボランティア推進協議会事業の充実		
No.4-(5)	学校支援ボランティア推進協議会事業の推進		
基本方針	人が豊かに生きるために体験を充実させ、学校、家庭、地域・社会が一体となった「つながりによる教育」を推進します	事業経費	5,534,630円
視点	3 行動する		
施策の柱	自己実現・社会還元の場合や情報提供		
担当課	生涯学習課		
事業の目的			
<p>地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、学校と地域のつながり、教員の子どもと向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図る。</p>			
事業の概要	<p>地域の方で子供たちを育む環境を整備する事業として、全17小学校各校に「学校地域支援本部」を設置して実施している。学校からの支援依頼に基づき、地域支援本部に配置されたコーディネーターが中心となってPTAや地域ボランティア等の協力をいただきながら、学習支援、学校環境整備、登下校見守り、学校行事支援等を行っている。</p>		
事業の成果・評価	<p>(主な支援内容)</p> <p>【学習支援】</p> <p>◆本の読み聞かせ、算数授業の補助、漢字検定補助、低学年の授業補助、稲作（田植えから収穫）、畑作り、体力テスト記録・補助、英語学習、菊作り、校外学習見守り、学級文庫入替等</p> <p>◆活動述べ日数（日）1,657日、 ボランティア等述べ参加者数（人）7,172人</p> <p>【環境整備支援】</p> <p>◆花壇の手入れ、校外・校内清掃、トイレ清掃、校内ペンキ塗り、花壇の土の入替、図書室整理等、田畑整備 など</p> <p>◆活動述べ日数（日）478日、 ボランティア等述べ参加者数（人）4,213人</p> <p>【登下校の見守り】</p> <p>◆登下校の通学路パトロール、朝の見守り</p> <p>◆活動述べ日数（日）732日、 ボランティア等述べ参加者数（人）8,054人</p> <p>【行事支援】</p> <p>◆七夕のささ収集、運動会の会場整備及び駐輪場整理・誘導、移動教室補助、学校まつりの補助等</p> <p>◆活動述べ日数（日）107日、 ボランティア等述べ参加者数（人）1,018人</p>		
今後の課題	<p>◆事業の継続・充実を図るため、学校及びコーディネーターと連絡調整を引き続き行う</p> <p>◆市民・教員・市職員等へ事業のさらなる周知を行う</p> <p>◆各校PTA、市PTA協議会とのさらなる連携強化</p> <p>◆コーディネーターへの情報支援、新しい人材の開拓引継の支援を行う</p>		

No.3-(3)	土曜日等の学習支援等構築事業の推進		
No.4-(6)	土曜日等の教育支援等構築事業の推進		
基本方針	人が豊かに生きるために体験を充実させ、学校、家庭、地域・社会が一体となった「つながりによる教育」を推進します	事業経費	667,209円
視点	3 行動する		
施策の柱	自己実現・社会還元の場合や情報提供		
担当課	生涯学習課		
事業の目的	<p>地域の力を活かした体系的継続的プログラムを行うことにより豊かで有意義な土曜日等を実現する。これらの事業を通じて地域の教育力の活性化を図る。</p>		
事業の概要	<p>地域の人材・企業等の協力により、土曜日等に学校では学べない3事業（小学生土曜算数教室・五小科学実験教室・ものづくり教室）を実施。</p>		
事業の成果・評価	<p>「小学生土曜算数教室」・「五小科学実験教室」・「ものづくり教室」（「プログラミング学習」を二中のものづくり教室を活用し企業の力を活用し実施）を実施した。普段学校ではできない学びを地域の力で小学生に対して提供することができた。</p> <p>【小学生算数教室】 開催日数 10日 児童延べ参加者数 457人 コーディネーター・推進員・サポーター等 6人</p> <p>【五小科学実験教室】 開催日数 7日 児童延べ参加者数 276人 コーディネーター・推進員・サポーター等 7人</p> <p>【ものづくり教室（プログラミング学習「デコレーションしたロボットを走らせよう」）】 開催日数 5日 児童延べ参加者数 287人 コーディネーター・推進員・サポーター等 8人</p>		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校と各事業のコーディネーターとの連携へのさらなる支援 ◆教育支援員・サポーター等の地域のボランティアの確保 ◆企業による支援の開拓 		

No.3-(4)	児童・生徒の芸術文化体験の充実		
基本方針	人が豊かに生きるために体験を充実させ、学校、家庭、地域・社会が一体となった「つながりによる教育」を推進します	事業経費	6,735,510円
担当課	学校課		
事業の目的			
<p>児童・生徒がさまざまな芸術・文化を体験したり、自ら工夫・創造・表現することを通して、芸術文化を愛好・享受する心情を育む。 地域のお年寄りを呼ぶなど地域に向け芸術文化を発信する機会を設け、地域全体の活性化に寄与</p>			
事業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ◆美術プロジェクト（日野市立学校の児童・生徒の小島善太郎美術館・東京富士美術館訪問）の実施 ◆児童生徒芸術月間（図工展・書初め展イオンホールでの同時開催） ◆小学校連合音楽会、中学校音楽鑑賞教室を11月に開催 ◆中学校合唱祭・ひのっ子ブラス&ボイスの開催 			
事業の成果・評価			
<ul style="list-style-type: none"> ◆夏季休業日に日野市立小・中学校の児童・生徒による小島善太郎美術館（小学生対象）、東京富士美術館（中学生対象）見学を実施した。 ◆小学校の図工・書初めを一堂に集めた「第4回ひのっ子作品展」を1月25～27日にイオンモール多摩平の森イオンホールにて開催し、好評であった。 ◆第5回連合音楽会を開催し、2部に分け実施した。自らの音楽を他校児童へ表現するとともに、他校の児童発表にも刺激を受ける機会を創出できた。 ◆中学2年を対象に東京都交響楽団による音楽鑑賞教室を11月1日に煉瓦ホール大ホールにて実施。 ◆中学校美術展を煉瓦ホール展示室にて平成31年1月19日、20日に開催した。 ◆中学校合唱祭を10月下旬にひの煉瓦ホール（市民会館）で実施した（三沢中は府中の森芸術劇場）。 ◆児童・生徒がさまざまな芸術・文化を体験することを通して、自ら工夫・創造・表現することが増えた。音楽に親しみ、仲間と力を合わせて努力を重ねたり、相違・工夫した作品を制作したりし、その成果を発表した。保護者にとっても学校における教育活動の成果を見る貴重な機会となっている。 			
今後の課題			
<ul style="list-style-type: none"> ◆美術プロジェクトは、学校への周知依頼をより早く出すことで多くの生徒に応募の機会を与えていきたい。 ◆ひのっ子作品展は中学校が合同開催とするか検討中であるが、スペースが限られており、現状維持の方向である。 ◆芸術月間としてのPR方法を検討し、より多くの方に作品展を見ていただけるよう工夫していきたい。 			

4-(1)	国登録有形文化財「桑ハウス」(旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室)の保存活用		
視点	1 学ぶ	事業経費	133,255円
施策の柱	いつでも どこでも 誰でも学べる環境整備		
担当課	生涯学習課		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ◆国登録有形文化財の周知 ◆修復保存と利活用方法の具体化 ◆歴史的、文化財的・建築学的価値等の発信 		
事業の概要	<p>国登録有形文化財として、日野市の宝として「桑ハウス」の歴史的、文化財的・建築学的価値を広く市内外に周知する。 今後の修復保存の中で文化財的視点を反映させるよう、関係課や市民団体との調整を行いながら利活用の方法を具体化していく。</p>		
事業の成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> ◆旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室、通称「桑ハウス」について、平成28年度に国の登録有形文化財への登録申請を行い、平成29年6月28日に日野市初の国登録有形文化財として登録された。 ◆登録決定を受け平成29年度に、無人航空機（ドローン）を使用しての桑ハウスとその周辺の映像撮影を行い、PR映像を3本作成。登録お祝い会や公開、視察等で上映し、桑ハウスの外観・内装・歴史など市民等に分かりやすく周知することができた。 ◆東京文化財ウイークにあわせ日野市産業まつりの2日間の中で、「桑ハウス」の公開を行い、市民等1809名が来場。公開に当たっては、「桑ハウス」についての歴史等をまとめた展示や養蚕関係民具も展示や、学芸員を中心としたガイドツアーを実施した。公開にあわせ、一中地区アクションプランの「蚕の糸取り体験」や、商工会のワークショップ「柿渋塗り体験」との連携も実施した。 ◆文化財行政をオール日野市として進めていくため、1課2館（生涯学習課、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館）の学芸員が定期的集まり、情報交換や検討を行い、公開に向けての準備を行なった。 ◆保存・活用及び市民等への周知を進めるため、「シルクロードネットワーク協議会」に継続加入し、山形県鶴岡市で行われたシンポジウムに参加し発表、発信を行った。また、加入団体等との連携、情報交換等を進めた。 ◆連携、情報交換の結果として、埼玉県小川町、NPO産業学習館（上武絹の道関連イベント）等の交流もでき、他市への発信を図ることもできた。 ◆東京都社会教育委員連絡協議会のブロック研修において、日野市の近代化遺産の一つである「桑ハウス」を他市の社会教育委員に説明と桑ハウス内の見学を行った。 ◆桑ハウスの修繕については、緑と清流課が中心となり、建築営繕課、生涯学習課が協働し調整を行い、平成30年度以降数年かけておこなうこととなった。 ◆修繕後の活用方策については、緑と清流課が中心に3課が協働し、民間事業者意向調査を行い4事業者から提案をうけた。今後の検討の参考にしていく。 		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆建物については、昭和55年の施設閉鎖後ほとんど手入れがされておらず、老朽化が進んでいる。保存修復については、平成30年度に日野市商工会との協定を締結、平成31年度よりして進めることとなるが、文化財関係補助金の確保及び登録文化財の保存修復設計や文化財修復の技術力を高める勉強会への参加など文化財担当として協力し、今後予定される屋根の修復をはじめとして計画的に保存修復を進め文化財を守っていくことが急務である。 ◆修復後の活用と運営方法については、関係課が協働し平成28年度策定した「保存活用計画書」に基づき、平成29年度に行った民間事業者意向調査も参考に、現在桑ハウスを使用している関係市民団体や地域住民等と調整を図った上で早急に決定していく必要がある。 ◆「桑ハウス」が稼働していた当時の関係者からの聞き取りをまとめ、市民にも公開していく必要がある。 		

4-(2)	第3次子ども読書活動推進計画(平成27～31年度)の推進と第4次計画の策定準備		
視点	1 学ぶ	事業経費	4,028,378円
施策の柱	いつでも どこでも 誰でも学べる環境整備		
担当課	図書館		
事業の目的	<p>子どもたち自らが成長や興味に応じて本の楽しさを発見し、読書を通じて学び考え生きる力を育むことができるよう、「読書でひろがる ひのっ子の力」を基本理念に、次の3つの基本方針の達成を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもたちが、さらに身近に本と出あえる環境づくり 2. 子どもたちが、自ら読書の楽しさを発信する取り組み 3. 子どもと本をつなぐ活動をする人たちが連携する仕組みづくり 		
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆乳幼児とその保護者への読書活動の推進。 ◆小学校への「本の森」学級文庫用図書の配本を拡大する。 ◆小中学校へ学習に必要な資料の情報提供及び搬送を行う。 ◆中学生が本に親しみ、読書の楽しさを同世代に発信できるよう、中学生と作家の交流事業を実施する。 ◆青少年が交流・発信する場としての「ヤングスタッフ」事業の推進。 ◆子どもの読書活動に関する地域の活動を支援。 ◆第3次計画の進捗状況を把握し、第4次計画策定の準備を行う。 		
事業の成果・評価	<ul style="list-style-type: none"> ◆健康課主催ママパピラスにて、これから親になる方への絵本の読み聞かせと図書館利用案内を9回行った。参加された方が図書館に来館し新規登録されるなど、図書館利用につなげることができた。 ◆保育園・図書館協働による絵本リスト「012歳児わくわく絵本」を作成。作成過程では、それぞれの現場での「子どもと本」についての情報を共有できた。リストは保育園ほか子育て関連施設にて配布。 ◆小学校への「本の森」学級文庫用図書は延べ51回、15,411冊の配本を行った。各学年に2箱(約50冊)の配本を行うことができるようになった。(1年生は平成29年度まで1箱のみ) ◆小学校3年生を対象とした「学校訪問」を市内13校に実施。図書館利用案内、本の紹介等を行い、図書館への来館を促した。おすすめ本の紹介やクイズを記載した「おはなしくイズブック」を作成し、市内全小学校3年生に配布した。 ◆小中学校の学習に必要な資料を、学校教諭からの求めに応じ延べ133回、6,371冊の貸出を行った。 ◆各中学校からの代表生徒26名が5回の会議を行い、中学生の企画運営による「科学でひもとく読書の世界 柳田理科雄さん講演会」を11月4日(日)に多摩平の森ふれあい館にて開催した。参加者は159名(うち中学生は60名)。中学生が本の内容を実践してみたり、著者に直接質問し答えてもらうなど、本の世界を体験し共有する機会とすることができた。 ◆学校図書館の選書にかかわる先生方に向け「図書のミニ展示会」を6月6日(水)に開催。出版社に調べ学習に役立つ資料などを見本に用意してもらい、手に取って選書する機会を提供した。 ◆「ヤングスタッフ」は以下の活動を行い、同世代と本の楽しさを共有することができた。9月11日(日)三鷹市立図書館「みたかとしょかん部！」交流会、11月3日(土)・4日(日)「実践女子大学常磐祭」での「癒し」をテーマとした本の展示およびブックリストの配布、11月17日(日)実践女子大学図書館の見学および学生との交流「第3回 本の交流会」、3月4日(月)日野第一中学校図書委員会にておすすめ本の紹介「BOOKパレード」。 ◆「子どもの読書活動に関するボランティア懇談会」を10月2日(火)、2月28日(木)の2回開催し、情報共有を行うことができた。 ◆移動図書館ひまわり号が旭が丘地区センターへの巡回(月2回)を開始し、図書館が募集した地域のボランティア10名による子どもたちへの読み聞かせも開始した。 ◆第3次計画の進捗状況を把握するため、小学校4年生から中学校3年生への読書調査、関係部署への取り組み状況調査を実施した。 		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆ママパピラスのような、これから親になる方への働きかけをさらに充実させる。 ◆小学校への「本の森」配本について、今後どのように展開させていくのか検討する。 ◆「中学生と作家との交流事業」の取り組み成果も踏まえて中学生への働きかけを検討する。 ◆学校司書配置校をモデルに、小中学校との情報共有や連携のあり方を検討する。 ◆「子どもの読書活動に関するボランティア懇談会」(今年度2回開催)を次年度以降も定期的で開催し、連携を深める。 		

4-(3)	ひの学人ネットワーク会議の設立		
視点	2 つながる	事業経費	24,000円
施策の柱	顔が見えるネットワークづくり		
担当課	生涯学習課		
事業の目的	<p>学びや活動の場や機会を提供している団体・グループが交流し、情報交換を行うことによりつながりや相互補完が形成されることにより新たな市民サービスを創出する。</p>		
事業の概要	<p>「日野まなびあいプラン」の行動計画②「ひの学人ネットワーク会議の設立（生涯学習懇話会）」として位置付けられる懇話会を社会教育委員が主体となって行った。関心を持つ市民や企業の交流・学びあいの場となるよう講演会・懇話会を行った。</p>		
事業の成果・評価	<p>平成30年度日野市生涯学習フォーラム「「学び場づくり」は「まちづくり」～世界一「学び場」があるまち・ひのを目指して」として社会教育委員の会が企画して実施。社会教育委員自らの学びと、生涯学習部門3館の審議会等委員、関心を持つ市民との交流・学びあいの場となるよう、講師による講演と、参加者のワークショップ（話し合い）、発表という流れで、生涯学習・社会教育について学び知り合う場となるようにプログラムを工夫した。</p> <p>【日時】 平成30年11月24日（土）13:30～16:00 【会場】 多摩平の森ふれあい館3階 日野市立多摩平交流センター集会室6 【参加者人数】 45人 【内容】 第1部 講演 「学び場づくり」は「まちづくり」 講師 牧野 篤 氏（東京大学大学院教育学研究科教授） 第2部 参加者によるワークショップ テーマ ～日野市の「学び場」「まちづくり」・・・だったらいいな！～ 6つのグループに分かれ、日野市の今後の「学び場」「まちづくり」について、参加者の現状や課題を報告しながら「日野の学び場が～～だったらいいな」というキャッチフレーズにまとめるワークショップを行った。</p>		
今後の課題	<p>「ひの学人ネットワーク会議」（生涯学習懇話会）については、今後も生涯学習部門（1課3館）の連携を中心に、生涯学習課事業にある市民とのつながりを大切に、産官学金につながるネットワークを目標において、充実させる。</p>		

4-(4)	「地域未来塾」を活用した放課後の学習支援開催校の拡大																																					
視点	3 行動する	事業経費	2,170,041円																																			
施策の柱	自己実現・社会還元の場合や情報提供																																					
担当課	生涯学習課																																					
事業の目的	地域之力により小中学生に対し学習の支援を行い「学習習慣の確立」と「基礎学力の定着」を図る。																																					
事業の概要	<p>◆「学習習慣の確立」「基礎学力の定着」「学習意欲の向上」「理解度における弱点補習」等を図ることを目的として、学校や地域の特性に応じ、児童・生徒に対して地域の人々や豊富な社会経験を持つ人材による学習支援。</p> <p>◆放課後の学習支援事業は国の地域未来塾事業の補助金を活用し、平成28年度大坂上中学校で開始。平成30年度は中学校3校、小学校2校で実施した。</p>																																					
事業の成果・評価	<p>◆平成30年度は新たに平山中学校、平山小学校にて事業を開始し、小学校2校、中学校3校での実施となり、事業の拡大が図られた。また、学習支援員として地域の方や退職教員、大学生など多くのボランティアの参加のもと事業を進めることができた。</p> <table border="0"> <tr> <td>大坂上中</td> <td>開催日数(学年別週3回)</td> <td>55日</td> <td>生徒延べ参加数</td> <td>516人</td> <td>学習支援員</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>日野三中</td> <td>開催日数(全学年月～金)</td> <td>172日</td> <td>生徒参加延べ数</td> <td>2,653人</td> <td>学習支援員</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>平山中</td> <td>開催日数(全学年月1回)</td> <td>10日</td> <td>生徒参加延べ数</td> <td>313人</td> <td>学習支援員</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>滝合小「たきあい塾」</td> <td>開催日数(2年～6年毎週火曜日)</td> <td>20日</td> <td>児童参加延べ数</td> <td>1,477人</td> <td>学習支援員</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>平山小「真心学舎」</td> <td>開催日数(全学年毎週火曜日)</td> <td>20日</td> <td>児童参加延べ数</td> <td>3,375人</td> <td>学習支援員</td> <td>3人</td> </tr> </table> <p>◆小学校においては、概ね月2回 年度半期に10回づつ実施。学年別・個別の小集団指導で算数プリントを活用した補習(復習)。児童の基礎学力の向上につなげている。大学生や地域ボランティア、元教員等が学習支援員として講師、学習支援を行っている。</p> <p>◆中学校においては、学校ごとに事業の工夫を行い、学習や進学への意欲につながっている。英語・数学のテキスト補習、定期テスト前の復習等の実施、また、タブレットを使用してのICT学習も取り入れている。</p> <p>◆学習支援に係わる市民にとっては自ら学習してきたことを地域に返す生涯学習の場となり、ひいては地域の教育力の活性化につながっている。</p>			大坂上中	開催日数(学年別週3回)	55日	生徒延べ参加数	516人	学習支援員	9人	日野三中	開催日数(全学年月～金)	172日	生徒参加延べ数	2,653人	学習支援員	8人	平山中	開催日数(全学年月1回)	10日	生徒参加延べ数	313人	学習支援員	3人	滝合小「たきあい塾」	開催日数(2年～6年毎週火曜日)	20日	児童参加延べ数	1,477人	学習支援員	13人	平山小「真心学舎」	開催日数(全学年毎週火曜日)	20日	児童参加延べ数	3,375人	学習支援員	3人
大坂上中	開催日数(学年別週3回)	55日	生徒延べ参加数	516人	学習支援員	9人																																
日野三中	開催日数(全学年月～金)	172日	生徒参加延べ数	2,653人	学習支援員	8人																																
平山中	開催日数(全学年月1回)	10日	生徒参加延べ数	313人	学習支援員	3人																																
滝合小「たきあい塾」	開催日数(2年～6年毎週火曜日)	20日	児童参加延べ数	1,477人	学習支援員	13人																																
平山小「真心学舎」	開催日数(全学年毎週火曜日)	20日	児童参加延べ数	3,375人	学習支援員	3人																																
今後の課題	<p>◆各校での事業が学校の理解と支援のもと進むよう、学校と各事業のコーディネーターとの連携への支援を継続して行う</p> <p>◆学習支援員等の人員確保とスキルの維持</p> <p>◆小・中学校間の連携を図ることによる継続的な学習意欲の喚起を目指す</p> <p>◆実施校・実施事業の計画的拡大を図るため、PRと情報収集、実施に向けた学校等との調整</p> <p>◆市民・教員・市職員などへの事業の周知</p>																																					

資料

日野市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価実施要綱

平成20年11月10日

教育委員会決定

改正 平成27年 4月 1日

(目的)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項及び第2項に規定する、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、毎年1回、主要な事務の管理及び事業の執行状況について、点検及び評価を行う。

(学識経験者の委嘱)

第3条 教育委員会は、点検及び評価を行うに当たり、その客観性を確保するために、教育に関し学識経験を有する者の意見を求めるものとする。

2 学識経験者は、学校教育及び生涯学習に関して識見を有する者2名をもって充てる。

3 学識経験者は、教育委員会が委嘱する。

4 学識経験者には、予算の範囲内で謝礼を支払う。

(日野市議会への報告書の提出)

第4条 教育委員会は、点検及び評価に関する報告書を毎年度作成し、市議会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 教育委員会は、点検及び評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 教育委員会は、効果的で、市民に信頼される教育行政を推進するために、点検及び評価の結果を活用する。

(庶務)

第7条 点検及び評価に関する庶務は、教育部庶務課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成20年11月10日から施行する。

付 則

この要綱は、平成27年 4月 1日から施行する。

学びと育ちの日野ビジョン(日野市総合教育大綱)

平成 20 年 6 月に制定した『日野市子ども条例』の前文は、「いつの時代にも子どもは社会の宝であり～未来への希望です」で始まり、「おとなは、子どもの力を信頼し、ともに社会をつくっていきます」としています。日野市は、子どもが健やかに育ち、学び、やがて地域を支えることのできる環境を全力でつくっていかうと考えます。

そのために日野市総合教育会議での議論をもとに、「学びと育ちの日野ビジョン(日野市総合教育大綱)」を策定しました。このビジョンのもとで教育と福祉の連携をさらに強化し、『第二次日野市学校教育基本構想』、『日野市生涯学習基本構想』、『新！ひのっ子すくすくプラン』を、地域の人々と共に総合的に推進します。

ビジョンテーマ

「ひのっ子を包み込む学びと育ちの環境が 地域から世界へ羽ばたく日野人を育む」

1. 「人・もの・こと」とのかかわりの中で 自ら学び 未来を拓く ひのっ子を育てます

- ◇「人・もの・こと」とのかかわりの中で磨かれる よりよきものへの思いと学びが 明るい未来をひらきます
- ◇自ら学び 考え 行動する力を育み 新たな価値を創ります

2. 「虐待」「いじめ」「貧困」から 子どもの育ちを守り 支えます

- ◇「一人で悩ませない 人を苦しめない」このみな願いを みんなの力で実現します
- ◇自信と元気を身につけた子どもが育つよう 地域社会で子どもを包み込み 見守ります
- ◇学校を核として 虐待・いじめに 正面から向き合い 覚悟をもって 子どもを守ります

3. 郷土(ふるさと)を愛する日野人として成長し 地域を創り上げるつながりをつくります

- ◇自然環境資源 歴史や郷土文化資源 地域団体等の社会資源を有効活用し 郷土愛を育みます
- ◇郷土愛をもった子どもたちが成長し 新たな地域を創り上げていく 日野人としての成長を支えます

4. 芸術文化の本物に触れ 本物を自ら創る文化を高めていきます

- ◇芸術文化活動を行う環境整備を進め 本物に触れる体験・主体的な活動を充実します
- ◇表現するよろこび 創造するよろこびに まちが響きあいます

5. スポーツを「する」「観る」「支える」ひのっ子・日野人を増やします

- ◇2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催をきっかけとし 子どもや若者が持つ エネルギーを余すことなく発揮できる環境 多様なスポーツに関わる機会を充実します
- ◇体を動かす心地よさ スポーツする楽しさに 心が動き笑顔があふれます

6. 家族の中で豊かな個性が育ちます 子どもを育てる家族を応援します

- ◇子どもは家族の中で成長し 家族のつながりを学びます 子どもを育てる家族を応援します
- ◇多様な家庭の文化を尊重し 自分の育った家庭環境を誇りに思える地域社会をめざします

平成 28 年 2 月 24 日

日野市長 大坪 冬彦

令和元年度 教育委員会の事務の管理及び執行状況の
点検及び評価報告書（平成30年度事業）

令和元年9月発行

発行 日野市教育委員会

編集 日野市教育委員会教育部庶務課

東京都日野市神明一丁目12番地の1

電話 042-514-8692(直通)